愛國婦人

發行所　東京麹町區牛ケ淵公園側　愛國婦人發行所　△振替貯金口座番號第壹萬[illegible]八[illegible]番　◎電話番町一五二〇番
▽發賣所　東京京橋區南鍋町　隆文館　△振替貯金口座八五三〇番　●電話新橋二五八六番　四四三二番

每月五日二十日發行
一部金三錢　壹ケ月金六錢　半ケ年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六十錢
本號全部[illegible]
東京麹町區（牛ケ淵公園）
發行所　愛國婦人發行所
編輯兼發行人・印刷人　山澤俊夫
編輯人　永持德一

家庭の問題

何故に愛國婦人は數萬部

を印刷するの盛況に達しましたらう？知る人ぞ知る。『愛國婦人』は世界唯一最廉にして而も最多趣味の家庭教育雜誌だからで御坐います。此點は多年本誌を愛讀さるゝ諸姉の等しく認めらるゝ處で御坐います。世の中には派出な立派な厚い雜誌が數へきれぬ程澤山御坐ます。その派出なこと、立派なこと、厚いことに於いては、本誌は多數の世間の雜誌の脚下にも及びませぬ。が、併し永い眼で見て下さる諸姉は、いかに本誌が、その實質に於て立派な多趣味な有益にして、平易い雜誌に致したい〳〵と苦心致して居るかゞお解りのことゝ存じます。本誌は此の際いよいよ益す、本誌の實質を好くし、實質に於て世界唯一の最良家庭教育雜誌に致したいと思ひます。

何故に愛國婦人は値上げ

を致しますか。——實は、此の値上げと云ふことに就いては、當發行所内に於て、一昨年來の宿題になつて居り、現に總ての物價高直になりました今日、唯今までの雜誌代では全く引き合ひませぬのにも關はらず、在來の直段で、一年二年と過して參りましたのは、成るべく廉價で品質の好い雜誌を愛讀諸姉に差し上げたいと云ふ當局者の老婆心からで御坐いましたが、我が『愛國婦人』をして、實質に於て世界唯一に致さうとすれば、然なきだに引き合はぬ勝ちの經濟事情では如何とも致し兼ねますので、其處で餘儀なく〳〵も、いよ〳〵今回來る四月を期し値上げすることに致しました。とは申すものゝ、値上げとは申せ、一部につき、唯つた五厘の値上げで御坐いまする **五厘** たつた五厘だけ餘計に代金がなつたばかりて、非常に實質が好くなると致せば、差し引き愛讀諸姉に取つては頗 **莫大の御利益** であることは、當局者、こゝに申上げるまでも無いことゝ思ひまする。廉價で好い品をとは何處の家庭でも常に問題となつて居ることとて御坐いまする。此問題に適ふやうな我が『愛國婦人』の値段引上げ方に就いては、何人も御異存の無いことゝ信じて疑ひません。

新光彩

四月

以後の『愛國婦人』はいかなる方法によりて、その實質を彌が上にも好しくし、いかなる新光彩を放つことて御坐いませうか。手前味噌との御叱りがあるか知れませぬか、その概要だけを、こゝに掻い摘んで申し上げることに致します。

愛國講座

多數

の日本婦人と異つて、泰西婦人が、割合に新思想、新知識に富んで居り、且又常識が幾分餘計に發達して居ると云ふことを、世人が能く申して居ります。而も泰西婦人が斯く十分の修養の出來るのは、その多數は數多くある泰西の好い雜誌を熱心に講讀する結果だと云ふことて御坐います。日本にも唯今は隨分好い雜誌も御坐いますが、その好い雜誌中の好い記事として、平易に統一的家事の餘暇々々に纏つた知識を得られるやうな組織に學術上のことを掲げてあるのは、餘り御坐いませぬ。依つて本誌は此の方面に向つて、實質的光彩を放んが爲め、此の『愛國講座』を設けるので御坐います。詳しくは追々申上げます。

愛國者

四月

以後の『愛國婦人』に掲げらるべき小說『愛國者』は伊太利のアントニオフオガザロの作にかゝるもので、ミランで發行され、すでに四十四版を重ねあらゆる外國語に譯述されて居るのを見ましても、いかに世界の人人に愛讀されて居るかゞ解ります。これを我が國語に譯して、四月以後の本紙に掲げやうと云ふ計畫て御坐いまする。『愛國婦人』雜誌上に『愛國者』と云ふ小說を掲げると云ふことは、最も相應しきことと存じまするに依つて、萬望末長く御愛讀下さるやうに、譯述者に代り、唯今から平に〳〵お願ひ致して置きまする。呉呉も四月以後の愛國婦人に愛國者の掲げらるることを御記憶願ひまする。

女禮式

社交

の漸次頻繁しくなる世の中に婦人方の先づ御知りなさらねばならぬのは、社交に必要な女禮式て御坐います。禮式にも、日本固有の禮式あり泰西の禮式が御坐います。日本固有の禮式は比較的に、習慣的に御存知の方が多いやうで御坐います。が、泰西的のに至りましては、割合、その知識に乏しい方々が多いかのやうに思はれますので、本誌は四月以後、先づ第一に泰西女禮式を愛讀諸姉に御紹介致さうと存じます。

女學校

東京

の女學校は何んなてあるか。何處の女學校は何う云ふ有樣てあるか、何う云ふ場處に在るか、其の眞價は何うてあるか、など云ふ問題は妙齡の姉妹方、また妙齡の姉妹方を我が娘として居らるゝ方々の是非とも知つて置きたいと思はれる必要の問題てあらうと思ひます。その邊から思ひつきまして本誌は既に前號から、此の記事を掲げ初めました。四月以後には、彌が上に此の記事は妙境に達すると思はれます。

卒先者の特權

別項社告通り四月以後本誌定價一部金三錢五厘と改むべし。但し三月中申込者は從前の代金にて宜し。

懸賞投票募集

愈よ次號の本紙に發表すべし。記憶せられよ來る三月二十日！

閨秀百佳選

締切期日は四月末日、一人三首限り、應募用紙は此面の左側に附けたり。詳細本誌前號第一面に掲ぐ。次號にも應募用紙を附すべし。

▼懸賞圖案募集▲

豫告の通り本社に於ては、今回愛國叢書第一篇女德論叢を出版するに付、懸賞を以て其表紙圖案を、普く江湖一般より募集することゝなれり。應募せんとする者は、左記注意各項に依られたし。

□應募規定□

一、四六版大表裏とも二度摺の事。
一、表には女德論叢、裏には愛國叢書の四文字記入の事。
一、〆切三月末日限の事。
一、圖案意匠は高尚優美なるべき事。
一、麹町區飯田町愛國婦人發行所内、圖案係宛の事。

賞金（全）
一等　金拾五圓
二等　金拾圓
三等　金五圓
以上各一人

應募圖案は當發行所に於て、專門畫家に委囑し夫々嚴密なる鑑査を經て、其結果を本誌上に發表す。

閨秀百佳選　應募用紙

姓名	住所	△注意▽　一枚一首を限り認むべし（一首以上沒書とす）

愛國婦人

『閨秀百佳選』募集に關する詳細のとは本誌前號にあり、就て見られよ

日本唯一の『愛國婦人』大革新の詳細を見よ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人大革新　社告第一面に掲載せり

社説

借金（一）

一國八千萬圓の暮らしが、十年目に二億圓となり、二十年目に六億圓となりたりといへば、大した進み方に違ひなし。されどそれは表面だけにて、内實は二十六億圓の借金がありて、年六億圓の暮らしの内、一億八千萬圓は、その利子に取られるとありては、隨分困つた暮らし方にて、さぞや遣り繰りがつらかるべく、内の火の車も想ひやらるなり。さればこそ一國の政治を相談する議會にても、毎年豫算か大問題にて、增税だとか、反對で御座るとか、大もめにもめるは、尤もの事にて、政府も氣の毒なれど、人民もまた氣の毒なものなり、國債といへば、立派に聞ゆれども、其實借金の事にて、借りた金なら返さねばならず、今更借りたのが、良いの惡いのといひても、仕方なければ、今日の所たゞ返金の工夫あるのみ。二十六億圓は政府が借りたるなれど、政府は國民を目當てに借りたるなれば、これを返すは、國民の働きに依るの外なし。今この借金を、國民に割り當つれば、一人凡そ四十六圓余りとなるといふ。而して之は赤兒も年寄も、一人前に數へられての負擔額なれば、働き盛りの男女の骨の折れ方は、一通りにあらずといふべし。然らばこれを返すの法は、如何にといふに、そは色々あるべきも、その有効なる一法は、人々が借金せぬようするにあり。貧は病よりも苦しと言はるれど、借金の苦しさは、貧よりも甚しきものなり。病人は眠れども、借金すれば眠られずの語あり。金を借るは、苦勞を借るなり。借金は人を奴隷たらしむ。借金すれば、己れの自由を束縛せられ、意氣地がなくなり、頭を下げ、申譯けをしてばかり居らねばならず。且嘘をいふやうなるものなり。借金と嘘は親友にて、共に早く上手となるものなり。上手も事にこそよれ、かゝる上手は仕方なし。借金ほど殖へるものはなし。始めは僅かこれだけといふほどの借金が利に利が付いて、何時の間にか之はといふ程の高となり。首も廻らぬ仕儀となる。實に借金程恐しきものはなし。福澤先生は、天下恐るべきものなしといふ隨分思切つたる人なりしも、借金には、大の臆病者にて、其自傳中にも、

> 假初にも人に借用したことはない。折節自分で想像しても、唯恐くて堪らない。借金が出來て、人から催促されたら如何だらう。……金を借りて返さなくてはならぬなんて、嘸忙しい事であらう。能くもアレで一日でも半日でも安んじて居られたものだと思ふて、殆んど推量が出來ない。一口に云へば、私は借金の事に就ては大の臆病者で、少しも男氣がない。人に金を借用して、其催促に逢ふて返すことが出來ないと云ふときの心配は、恰も白刄を以て、後ろから追蒐けられるやうな心地がするだらうと思ひます

と言はれたり。流石は福澤先生にて、感服の外なし。借金をせぬ工夫は、他にあらず、人々その分限を知り、分限に應じて暮らすにあり。分限者といへば、金持の事と思へど、左にあらず。「分限とは、分の限りと書て、おのれが身の一分相應のかぎり有所を知て、身の分際にしたがひ、相應のふるまひをして、過分の貯へを願ひ求めず、身を靜にし、心を安樂にして日をくらす人を、分限者とはいふ也」（「町人袋」）詰まり分相應の生活をする者が分限者にて、分相應になし居らば、借金などの出來る筈なし、「事足れば足るに任せて事足らず、足らで事たる身こそやすけれ」。然るに人は兎角この分が越えたくなるものにて、木綿相當の者が、絹物を着たがり、銀の簪でよい所を、金にせんとし、下女を置かでも濟む所に、下女を置く等の事より、分限を越えて、收入だけてはやり切れず、果して借金とはなるなり。お蠶ぐるみ、金づくめが、如何に立派でも、これが借金づくめて出來たと思へば、樂しき心地はせざるべし。それよりかいつそ、誰れ憚らず自分の物なる木綿を着て、襷掛けてもした方が、どの位氣持よきか知れず、さらずば一生貧乏神にせめ立てられて、難儀する外なかるべし。生活の極意は分限を知るにあり。されば澤庵和尚も「貧なる者の、勝手よき者を手本とせんは、三五の十八にて候、分限を我と考へ、身分相應の所をよく分別してすりきらぬやうにするを、人と申候」と言はれたりよく味ふべきなり。

當代百畫選（三）

梅の木の間

靜香

咲にけり梅の木の間の梅の花　月居

梅日和！　好天氣!!　庭前なる梅の木の間の梅の花は、既や七分通り咲いて居る。が、いかに珍でも鼻に付き、見なれて居るのでは妙て無い。騷々しいが、東京の極から極までの距離を僅かに短縮して呉れた電車と云ふ調法物がある。扨て何處かなあ、梅の木の間の逍遙と云ふ風流な寸法に洒落やうと云ふに適つけの處は。甲か乙かと詮議に詮議を重ねた末、結局白羽の矢は蒲田……次に大森へと落ることになつたのであります。

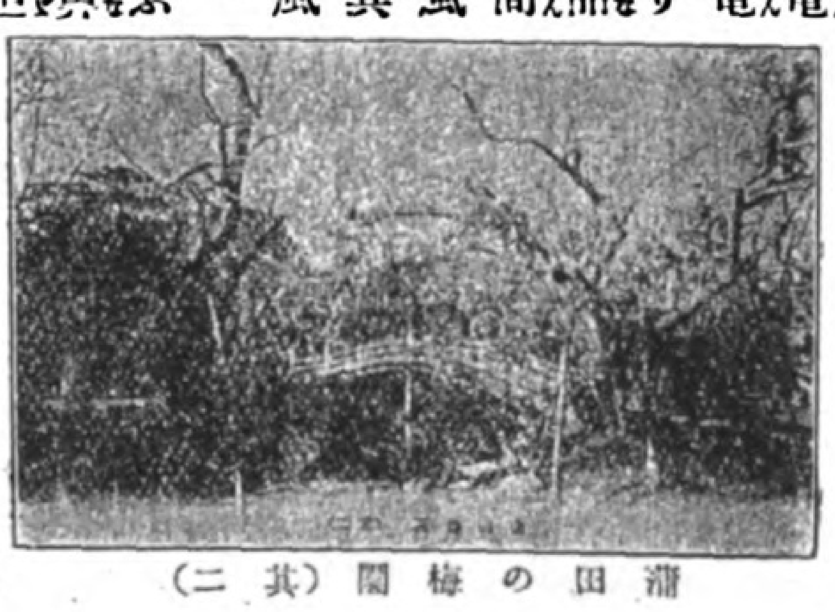
朝の間の梅か香も來て暄哉　移竹

全くのこと！　今日の梅見と云ふ即興も、それてあります。ぷーんと、得ならぬ香!!　今朝の霜未だ悉くは溶けやらぬ早旦半醒眼の身に泌み〲と快さに、梅見譚と云結果になつたのでありました。しかも、その日の日和の麗かさ！　上々吉の淺黄空とは、方しく之れ。

蒲田の梅園（其一）

白梅は浮世わするゝ始め哉　定雅

三度目に乗り換えた電車は、一瀉千里の勢、早やも蒲田梅園前に停る。電車を降る。門を入る。身は忽ち白梅に浮世忘れし人！　清興に、心、快哉を呼りながら、屢ば電光石火の電車の窓より遠望した品川、蒲田間に於ける風情ありし其處彼處の風情を思ふ。そこへ、ぷーん、と鼻へ來る。但し、怪しきにはあらずして得ならぬ梅の香なり。



蒲田の梅園（其二）

梅を見て居れば程なく匂ふかな　宵鳥

成る程、と、思ふ。梅を見て居れば程なく匂ふかな。成る程、な―　幾たびか思ひつゝ、足の向ふにまかせて

梅園を南すべく北すべく　蕪村

そゞろ歩きも、久しき間に渡つたのでした。が、御存知の方には申し上げるまでも無いことですが、蒲田の梅園は一面の平地。極めて單調である。老木こそあれ珍とすべき梅樹こそあれ……

長嘯の名殘もあらむ岡の梅　曉臺

など、と、わざ〲高きに上りたくも、上るべき岡すら無い。岡もあり、海をも見晴し得べきは大森に限る。大森！　大森!!　と、引き返して、更に大森の梅見をもと云ふことになりました。

山陰やけふりの中にうめの花　闌更

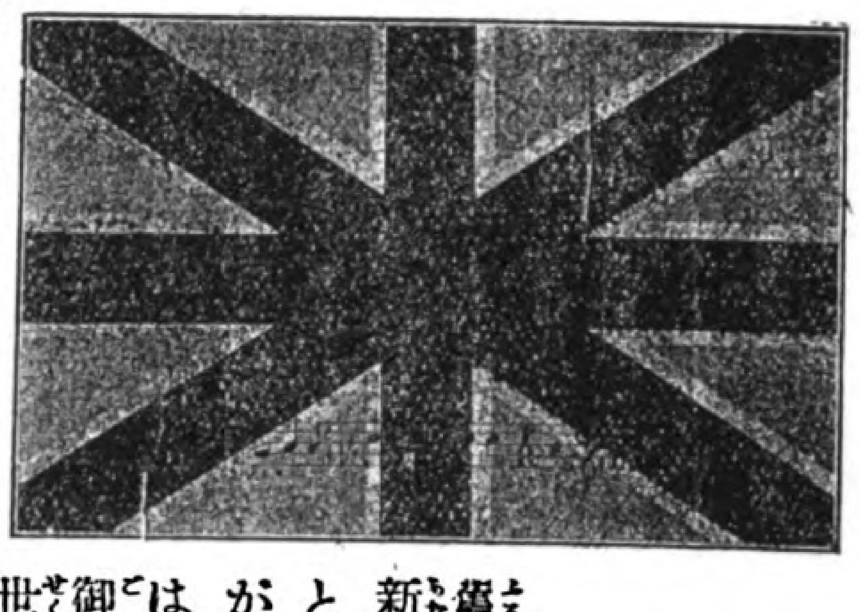
大森に岡があるとは云ふ條、山と云ふやうなものは無いから、闌更の此の風情など、到底、味はひ得べき場處では無いのです。が併し

香につけて離ればもとの梅の花　鷹太

の風情は充分に味はれるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人大革新　社告第一面に掲載せり



世界の婦人

舊きを尋ねて新しきを知るとか申しますが、此の計畫は即ち夫れて御座いまして世界各地の婦人の氣質は何のやうなものてあるか、何處には何のやうな模範的婦人が居るとか斯う云ふやうなことは、隨分古くから種種の書籍にも載せられては御座いますが親しく海外へ遊ばれて、種々の觀察を致て來られた人々に、改めて此のやうな問題に就いて伺ふと、隨分意外に參考になることを承はることも出來やうし、それにまた、種々の用向きて來朝て居らるゝ各國の人々から、親しく各自の國の御婦人に對する觀察を伺つたならば、隨分思ひの他面白い材料を伺ふことも出來やうし、また、愛讀諸姉等の何ぞの御參考にも成らうかと云ふやうな次第て、今號以後幾號かに渡つて、此の種類の記事を引き續き掲げたいと思ひます。

編輯局員の胸中は此のやうて御座いまするが、扨て、其處て、此のやうな談話を伺う爲め、第一に馳せ付けたのは、唯先日御歸朝になつた津田梅子女史：：。

有名な梅子女史が何のやうなお方てあるか、その一面のスケッチは別項、覆面女史の手に依つて描れてあるから夫れを御一讀願ひたいのて御座いますが、左に女史の談話と、記者が頂戴した材料とを參照して、標題のやうな記事を誌すことに致しました。

米國の模範婦人

津田梅子

◎成る程、鳥渡面白いお思ひ付きのやうてはありますが――尤も、左樣いふことは、隨分、種々書籍に載つて居りますね。と云つて折角のお尋ね――ては、斯うしましやう。此間、米國へ參つた砌お目にかゝつた感心な御婦人のことを申上げましやう：：：尤も、此處に在る米國雜誌にも、その方のことが載つては居りますが、未だ日本の雜誌には載つて居ないやうに思ひますが、兎に角、此雜誌を御參照なさつて：：：：。

◎左樣てす、私、その婦人に初めてお目にかゝつたのは去年の――何月てしたつけ？：：：今、日記を見ませう。――――左樣、左樣、九月の十四日―左樣てす。この日てす。去年の九月十四日のことてした。

◎場所はホドソン河の畔て、その婦人に初めてお目にかゝつたのてす。その婦人の姓名てすか：：：：？

◎御存知てしやう、彼の有名なジエー、グウール(Jay Gould)氏。私のお目にかかつた、世にも稀らしい感心なお心懸けの方と云ふのは、此のジエー グウール氏の娘さんのことてす。

◎御覽遊ばせ、此の雜誌に、ミス グウールス スクール デース(Miss Gould's School Days)として載つて居りましやう

グウール孃の學生時代

（イザイー ロッス原文）

◎私共、互に卓一個を境に坐つては居りましたが、此の纖削な、可愛い聲の妙齡な孃さんの、彼の有名なジエー グウールの長女だと判りましたのは、卓を並べ初めてから二日經つたのことて御座いました。（中略）

◎ジエー グウールの長女ヘレン グウール孃は眞實のところ、格別他人から注意を惹くやうな點のある婦人ては御座いませんてした。が、唯だ鳥渡外目に著しく見えましたのは、その衣服が、誰よりも彼よりも一番質素だと云ふことゝ、一勉强家だと云ふことゝ、これだけて御座いました。

◎それに、私が如何にも感心なと思ひましたことは、ヘレン孃が一度も遲刻をなすつたことの無いと云ふことゝ、何の學課も〳〵、すら〳〵と滯りなく立派になさることゝ、學課の時間に決して無用な談話をなさらなかつたことゝ、お菓子なぞを卓の下に忍ばせたりなさらなかつたことゝ、先づ之れ等の點て御座ります。

◎私は時々、ヘレン孃を妬しいとまて思つたことが御坐いました。が、同時にヘレン孃が、同級の他の方々よりも優れた點のある方とは思ひませんてした。ヘン孃の英い點は一意專念の勉强と云ふ、その點に在ると私は思ひます。ヘレン孃は、實にお氣の毒と思はれる程の、學校中ての努力者て、束の間をも無駄になさらぬ婦人て、彼の婦人以上に勉强の出來る忠實の婦人は、學校中他には御座いませんてした。云々。

＊　＊　＊

このヘレン孃が何故に米國の模範婦人てあるか、何のやうなことを致した婦人てあるか、これは米國雜誌を參照して、次號の紙上に述べましやう。（記者誌す）

◁今年の曆▷

三　月（大）
March.

日S	1	8	15	22	29	…
月M	2	9	16	23	30	…
火T	3	10	17	24	31	…
水W	4	11	18	25	…	…
木T	5	12	19	26	…	…
金F	6	13	20	27	…	…
土S	7	14	21	28	…	…

女の指十本て軍艦を造る法

後篇（下）

支那ては貴婦人と雖も室內用の靴は必ず自製の品を用ゆるので御座います。あの足の筋を切詰たる無氣力なる支那婦人てさへ然樣なのですから、立派に步く事が出來る日本婦人が、自分の足に穿く足袋くらゐは、作らなければならぬのてあります。然るに男子の手になる品を用ひて平氣て居るのは、我婦人方は支那婦人より優れて居ると云ふ事は申されません。斯の如く一般女子の度外視して顧みざるにも拘らず、今を去る廿有餘年前實業抔は未だ社會に於て、一向重きを置ざる時に當り巍然として自個の所信を固執し毀譽褒貶を物ともせず、泰然として足袋の甲立を縫ふて、**所得稅丈けは主人の月給より支出せざるやうにしたるは、時の印刷局長得能氏の令夫人と令孃**とて御坐います。然し當時は高貴の身を以て、下賤なる業を爲し、賃錢を貪るは慾張なりと嘲笑する者が多かつたのてあります昔日は嘲笑されても、今日に於ては天性獨立思想に富み間接には富國强兵の基礎たる尊敬すべき美譚となつたので御座います。

賢婦人とは此方たちを申す詞て御座いませう。其處て最後に**足袋の利益**を大略申上ます。譬之ば大小足袋一足に付五錢の利ありとすれば、一家三人の家族として一人一足に對し五錢として三人にて十五錢、十戶にて一圓五十錢、百戶にて十五圓、千戶にて百五十圓一萬戶にて千五百圓、十萬戶にて一萬五千圓、百萬戶では十五萬圓です。此の比例にて成算すれば、實に利益は無盡藏て御坐います。

是十年間に軍艦の一二三雙位は至つて易き所以てあります。一家に取ては便利且つ經濟にて著しく世間の眼には立たぬやうてすけれども、自然間接に義勇奉公の道も立ち、足袋一足と雖も君國に奉ずる精神を持つて、勉勵すれば又其處に云ふべからざる面白味があります。斯く申上ぐれば、足袋の如き下品な物て無くとも今少し上品なる仕事にて、君國に盡す道がありさうなものと、仰せらるゝ方もありませうが、決して足袋と侮ることは出來ません。種類が六七十通りもあつてなか〳〵大事業て御座います。然し早ければ二週間遲くて一ケ月位にて、學ぶに速く殊に材料も純白淸潔にして且つ需要の區域も博く限りがありません。主婦が家庭に於て仕立るにも、僅かの合間隙間に何れにても持運び至極便利にて調法てあります。（

團隊を組織し一の事業として爲すも、決して衰ふる憂ひはありません。然し斯く申せばとて、足袋ばかりて國が富む譯には參りません。わが愛國婦人會の授產場なる足袋の敎師も、唯足袋のみの敎師てなく、足袋は只副職にて洋服に堪能なれども先第一に需要の博き足袋より初め、將來は足袋は必ず自製のを使用せざれば、人皆之を恥辱とするやうな習慣に致し度ものてあります。

然らざれば、却つて支那婦人並に得能夫人の物笑ひとなるてありませう。軍人が我々を代表し、戰場に向ふ事を想へば足袋の瓜先指先位は何でも無い事で御坐います。而して之を覺えて置けば**一朝有事の際**、之を製して戰地に送らば、軍人の喜び如何斗りて御坐いませうか不知。

此記事を御覽の上、進んで學ばうと思召す方あらば、御相談の上成るべく費用の掛らない樣に、御便宜を計らうと存じます。最も地方に依つては、埼玉愛知三重の如きは足袋の材料の本場にて、居ながらにして辨ずる所もあれど、汽車の交通機關もある事なれば、何れの地方にても、材料に差支へるやうな恐れはあるまいと存じます。若し志ある方が、足袋の裁斷縫方を御熟練の上は、御家族に御使用の餘を、御贈物にしても宜し、又捌かうと思召さば、羽根が生へて舞ふやうに、速かに處分する事が出來ます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人大革新　社告第一面に掲載せり

神經質の治療法

（所謂文明病に就て、其四）

醫學博士　土田卯三郎

前號に述べたる如く、神經質を治療するに就て最も必要なるは、精神及身體の發育程度に應じて、或は精神的に或は肉體的に、各適合する職業を選ぶにあり。精神的業務に從事する者は、其傍ら身體的勞働を配合するの注意を忘るべからず。如斯すれば或程度内持續したる精神刺戟によりて生じたる、腦皮質の官能的知覺過敏は、身體的勞働に依りて、之を回復することを得べし。故に注意して純粹の精神使用は滿二時間以上に渉らざる樣注意すべし。即ち滿二時間の精神的業務を取りたる後は、一定の休息例之ば散步、食事、遊戲、室內勞働等をなすを要す。往々學校或は會社に於て、數時間の精神的勞働を與ふるは、衛生法に適したるものと云ふを得ず。斯くの如き時は午前八時より午後二時まで、間斷なく精神的業務を爲すよりも、寧ろ之を午前と午後に分ち、食後一定の休養時間を與ふるを最も適當となす。然れども此は素より人々に於て同一ならざれど、三時間に渉る精神的業務に耐へ得る人は、甚稀に見る所ならん。

食事後は精神を使用すべからず。之れ消化を害すればなり。又消化時は良好なる思考力を缺くものなり。一般に之を云へば精神及身體の勞働は、休養時間よりも少なからざるべからず。但し社交時間はたとひ本業にあらずと雖も、之を休養時間と見做すことを得ず。

舊慣にありては、佛承日とて毎週一日の休業をなしたり。此れ精神及身體を休養するが如きも、其實精神の慰勞としては其効甚しく尠し。何となれば佛承其ものは多人數群集する所にして、一部社交的の勤めを要すればなり。故に日曜の休日には如斯き佛承或は飲酒の席、其他團體的集合所等に關係なく、全く自由なる精神的及身體的の休養をなすべく國家が之に向つて或方法の上に斯の如くならしむべき責任あるものとす。

最も注意すべきは充分なる睡眠を取る事なり。熟睡は精神及神經系統を休養する唯一の方法なり。即ち翌日再び業務に勉むべく、活潑なる張力を蘊蓄するの手段なり。此の目的には普通七時間の睡眠を爲す事必要なり。而して此の時間内は充分なる熟睡を要するものにして、若し半睡半醒、或は多夢等ある時は、既に神經系統の健全ならざるを證するものなり。寝室は一定の廣さ及空氣の流通を適宜ならしむべし。滋養物としては普通大人が要する最低格にて七拾グラムの蛋白質を要す。元より此他に一定の含水炭素即ち植物性食物の攝取を要す。往々都會に住するものは、必要以上の肉食を取ること多し。此の過剰の蛋白質は不必要なるのみならず。却て殊に神經系に向つては有害なり。ペール氏の主唱せし如き、神經質の一原因として脂肪食の少なきを數へたるは、今日此説を顧みるもの殆んど無し。飲料としては今日尚ほ一部の醫家は、或程度までビール或は葡萄酒等を飲用せしむ、其利害の比較上寧ろ取るべき點は此の後者に多けれども、然も此のアルコール問題は小生後日詳細なる報告をなすべきも要するに神經病學者及精神病學者の研究結果は、アルコールを含有する飲料は、其時と場合各人體質の差異其他用法の如何なる差異あるも、吾人身體を害することは常に同一にして、量の多少に關係せず。只少量にして大なる害の起ると、多量にして比較的無害なる如きは、其人々のアルコールに對する抵抗力に差異あると云ふに他ならず。假令外觀上無害なる如く即ち多量の飲酒家にして七十乃至八十歳までも、其の壽を保つ場合ありと雖も、之を以て直ちにアルコールの著しき有害物にあらずとするの例證たるを得ず。若し此人にして飲酒さぜりしならば或は百歳以上の健康なる生命を保ちたるべきなり。アルコールの害は如斯して、其の飲酒する本人のみならず。之を子孫に傳へて病毒を流す。先天性の神經病、精神病、不具等の多大數は、父母のアルコール中毒の遺物にして、其一小部分は父母の黴毒に基因すると云ふことを知らば、此可憐兒は其父母に向つて己れの不幸の因は父母の賜と知りたる時は、果して如何なる感情を惹起するならん。アルコールの害が上記の如く確固として、寸毫の疑ふべき餘地なきとを證明したるは、殆んど最近十年神經病院及精神病院の働きなり。アルコール含有物の如く、甚しき有害ならずと云ふも、又茶珈琲煙草等は此の神經質を惹起する補助たること多し。然りと雖も之れ元より其量に關係するものなれば適度にして方法の宜しきを得ば、又甚しき有害の物に非ず。

（大尾完結）

裝飾品の話（下）

長堰生

指輪のとは古く舊約全書にも見へて創世記にもパロが「指輪を其手より脱して之をヨセフの手にはめ」たとが載つて居る、之は埃及の統御權をヨセフに委ねた徽標で此他之に類した記載や、耳輪、腕輪などの事も少からず載つて居る。

古き歷史家ヘロドタスは此指輪をはめるといふ風習が既にバビロンにも有つて希臘人は多分此風習を亞細亞から傳へたのであらうといつて居る、希臘の傳説には昔の英雄は大方指輪をはめて居て、後代には庶民悉く皆之を用ゐるスパルタ人の如きも鐵の指輪を着けた、羅馬でも公民は希臘と同樣之を用ゐる特權を持つて居つて多くの羅馬人は鐵の指輪を用ゐた又羅馬の共和制の初代には黄金の指輪が使臣使節の禮裝の一であつた、後此指輪着用の風は議官や一般の官吏にも及び尚進んで一般の民衆にも行はれ終に歐洲の全部に擴がつたのである。

それから結婚の指輪であるが此風習の元祖は猶太人で遠く紀元前に基ゐて居る丁度一國の統御權を委ねる徽標として指輪を渡したとが上古に行はれたと同じ意味で夫たる者の指輪を妻たる者に與へるのは夫の權利の幾分を妻に配つとの趣意から來たのてある。

今一つ指輪て有名な故實は昔ヴエニスて耶蘇昇天日に船から指輪を海中に投げ込んだ事て、矢張妻が夫に從ふと同じ趣意てアドリヤチック海がヴエニスに服從してヴエニスの繁榮を計れとの意味てある。

次にブローチの事を一言しやう。之も餘程古くから用ゐられた裝飾品で其最も古いのは南歐の鐵器時代の古墳から出たのでも知れる。尤もこんなのは形も今日のと稍や違つて居り品質も大方靑銅などて出來て居る、又中には動物の形を模したのが有り、或は日月の形にしたのもある、蘇格蘭や愛蘭の古きケルト族のは三日月の形をして中々精巧に出來て居るとの事てある。

次は腕輪てあるが之も民族の文野古今を問はず廣く行はれて希臘などては色々な材料や種々の形があつて時には二重にも三重にも腕を廻つて居るのが有る。其最も巧みなのは蛇の形てある。羅馬ては主として婦人が用ゐたが往々勇士が勝利を得た時に其標章として腕輪を贈つたとの事てある。又獨逸やスカンデネビヤなどては裝飾用てなく保護用として此腕輪を用ゐた時代があつたとの事てある。

古今集

□□□□□

春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やはかくるゝ

最新美顔法

ニキビとアレを治す法
白粉を美れいにつける法
寒さと皮膚の養生法

野に咲ける一輪の梅花の物寂びしい此頃の天地に言に云はれぬ興あるが如く美るはしき婦人は其家庭と其の交はる社會に不斷の樂を與へるのであります故に美貌は婦人の生命であるのみならず出來得る限り自分の容色を整へる事は老若の別なく婦人たるもの、義務と存じます。

寒氣酷しく人の皮膚は動もすれば荒れ易いのであります故に婦人方は固より殿方も常に注意して夫を豫防せねばなりませぬ夫れにはローヤル水を御使用になるに限りますローヤル水は皮膚の荒を防ぐのが特長で常にローヤル水を御用ゐになれば顔のあれることなぞは一向御座いません。

化粧と云へば單に白粉等を顔に塗る物と思召す方が多い如うですが夫れは丁度土臺のない處へ家を建てると同じく大變な間違て御座いましてつまり美つくしい皮膚があつて始めて美るはしい化粧が出來ますのですから御婦人方は常に皮膚の營養に御注意なさらないといけません皮膚の營養に御用ゐになるには、ローヤル水に限ります殊に此の頃では冷氣に皮膚が收縮するため兎角白粉の伸びが惡く少し經つと直ぐ白粉がハゲて見苦くなりますがローヤル水さへ御用ゐになれば白粉は何時でもよく伸び鉛毒て顔の黒くなる事もなくどんな寒氣にもヒビアレの患なく且つ色を白くし肌理を濃やかにしニキビ、ソバカス等を未然に防ぐ効があります定價は大五十錢、中卅五錢、小廿五錢、郵税は十二錢、郵劵代用一割增、發賣元東京銀座一丁目ローヤル化粧料發賣元なる佐々木商店てす

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

平和(下)

森志つか

櫻も最早そろ〳〵咲め初めやうかと思はるゝばかり麗かな日和の唯或る一日。季節は三月の初めつ方。

御隱居樣はお留守の、唯つた一人の愛孃泰代は、機嫌克く遊び勞れた擧句の果好うやす〳〵と眠入つて居る。

鬼の居ぬ間――否、御隱居樣を鬼に譬へると、何うやら氣むつかしやの、宜しからぬ女性と思はれるか知らぬが……實のところ、御隱居樣は極くの好人物……唯だ玉に瑕なは、短氣なと云ふ、兎角老人には通弊な損氣――損氣は御當人に取つてゞあるが、弱年な奧樣お喜美に取つては精根を盡き果てさせる損氣となるので。――その御隱居さまは、今日の日和を、お手傳の後生參り。そのお留守は、奧樣のお喜美に取つて根休めの保養になるので。

氣に入りの下女小夜は、お喜美の話相手を口の仕事に、手は奧樣と同樣、忙しげに針仕事を續けて居る。

「全くで御座いますともねえ、奧樣。此樣な未熟妾でも、それは最早お察し申し上げて居りますので御座います」

「卿に左樣云つて貰ふと、妾は何樣なに心嬉しいか知れないよ。ねえ、卿。」

「什樣致しまして、まあ、奧樣、飛んでも無い……。」

「何有、飛んでも無いどころか、眞實だよ。卿も知つてのやうに、妾には生家があつて無いやうなものだしするのだから何時も云ふやうではあるが、妾は卿一人を肉身の姉妹とも思つて居るのだから。」

「あれ、まあ、其樣な、勿體ない。」

と、小夜は思はず聲を高めたが

「おや、お俥の音のやうで御座いますね」

と、耳を峙てる。

「眞實に……!」

とお喜美も聞耳を峙てながら

「最早、御隱居さまがお歸宅か不知。それにしては、少し早過ぎるやうだが……それとも、若しや、檀那樣が……。」

と云ふ間、門内に俥を引き込む音。それと同時に小夜を先にお喜美も立ち上る。

＊　＊　＊　＊　＊

洋服のまゝ、前方に煙草盆を扣へて安座して居るのは、當家の主人神藤才二である。

妻のお喜美か差し出す煮花の湯呑を盆から手に取り上げながら

「珍しく、今日は早く役所の仕事が片付いて喃。」

と、左手で、切りと腮鬚を捻つて居る。

「それは、まあ、宜しう御座いましたこと。併し嘸、お勞れて……。」

と云ひつゝ、お喜美は鳥渡微笑む。

「何有、格別には思はんがの。時に母上は什樣遊ばされたの。」

「お天氣が宜しいので、上野の大師樣から、淺草の觀音樣へ御參詣にお出ましに成りました。」

「ふむ。それは、宜いことをされるの。ほう、泰代の影が見えんやうぢやが……」

「唯今、唯今好く熟睡つて居りますの。」

「左樣か、それも宜矣々々。」

と、二口目の茶を綴りながら

「先頃から約束して置いた、彼の指輪那を今日、金線堂へ注文して置いたからの、後刻に持つて來るじやらう。」

「まあ、それは。」

とばかり、お喜美はにつこり。同時に、また、門内に車の挽き入れらるゝ音のしたのは、御居隱さまの、信心參りから歸られたのであらう。

和暢さ、上も無き春の日を、和暢に車の上でゆられ〳〵ながら受けて、歸つて來た此の家の御隱居さま、頬鬚こそ嚴めしけれ、氣象至つて和暢なる主人の才二一向に從順をば婦德の第一と心得て居る妻のお喜美、此の三人が和暢な春の日を受けながら、さま〳〵和暢かに物語る樣の、いかに和暢なことであらう。

平和!　平和!!

然り、これが眞實の平和である。併し萬人の理想とする平和なるものは決して永劫に續くものでは無い。

論より證據は彼の創世紀。彼の創世紀の第一頁を繙いて見給へ!

エデンの花園は、創世紀の示すやうに平和の天地であつた。アダムもイヴも神の手づから作りなせし人間であつた。平和な、溫順な、神の作りしアダムやイヴに、益ない入れ智慧をしたのは、何者であつたらうか。

惡魔!　然り、彼の惡魔である。獅子心中の蟲である。惡魔を作り出すものは人、平和を作り出すものは神。

されば、惡魔は平和のバチルスである此のバチルスは、時々、この神藤家をも見舞つて居る。此のバチルスは、何時の間、どれほどまで、人の心の平和に喰ひ込むかも知らぬ。

記せよ、諸姉妹!

神藤家ならぬ何處の家庭にも、神の平和と、人の惡魔と相表裏して潛むことを

――(四十一年二月二十日)――

▼次回には「一直線」(無名氏)を掲ぐ▲
▽百佳選　應募用紙は次號にも附載す△
▼應募用紙　は夫れにて都合三枚なり▲
▽小說愛國者　は四月以後誌上に掲ぐ△

對面録

△津田梅子女子　覆面女史

愛國婦人會の爲めに、常住いろ〳〵盡力さるゝ津田先生――近しい關係の方々に對しては、(此樣な記事など面白いとは思召さぬはどの)何とも申し譯はないが、兼て津田先生の芳名を慕はれて居て、未だ生面の方々には、御參考の一端にもと、スケッチを書く力のない妾、一生一代の心血を絞つて、文字の上に津田梅子女史萬分一の佛を寫し出して見ませう。

津田先生の英學塾だか、英學塾の津田先生だか、殆んど判らぬほど世間――否、世界の人々から思はれて居る津田先生、この先生は何樣なお方であらうか、一度はお目通りして、口づから高談を承はつて見たさの山々。蟻の思ひも天に通るとやら。この間、久方振て米國から御歸朝後間も無く、御都合を何ひの上、御面會日と定められてある火曜日の午後罷り出て た時の嬉しさ。ほんに、今でも心臓が動悸つくやうて御座います。

御女中の方で御座いますか、それとも、何か特別の譯合で寄宿されて居らるゝ方か、妾には解りませんが、鳥渡、お柔和らしい女學生風の方に御案内を願つてズッと通りますと、其處は洋風の應接間。見るさへ心地好げに、紅々と石炭の燃えて居る暖爐に近く据えられた椅子の一脚を頂戴して坐はると間もなく、お茶が出る、お菓子が出る。お茶をいたゞきながらお室の内を見廻はすと、二ケ所に据えられた本棚に、ギッシリと種々の洋本の飾られて居るのに目が付きましたが、唯、近頃讀んだ爲ですか、洋本の中でもハーンさんの御著述に目が付きました。

待つ間程なく、お被布を召し、お袴をお着なさつた津田先生は暖爐と並んだ入口の扉を、しとやかに啓けてお還入りになる。御挨拶を申し上げながら、失禮とは思ひましたが、つら〳〵と先生の御樣子を伺がひました。御年配は……否、貴婦人の御年配を數へるのは失禮だとか聞いて居りますから、御年配だけは廢止に致しませうが、御纖削のところから、御顏だちの何處となく引きしまつて居るところから、何とはなく武田錦子先生に似ておいでのやうに思はれましたのは、妾の僻目で御座いませうか不知。相憎にも、當日は、先生には御風邪氣で、連りに咳嗽を遊ばしたのでしたが、それにも關はらず、御親切に種々とお話し下さいました。その話の調子――否、調子では御座いませんが、そのアクセントが、日本語のよりも、どつちかと申すと、英語のに似て居りましたのは、御歸朝後間も無いこと、素より左樣あるべきことゝ、妾には思はれましたので。――あゝ、那から幾日か經つた唯今でさへも、先生のお聲は耳に、お顏は目にちらついて……

彌生日記

――(鎌倉の一日)――　中隈富士子

是より大佛道と記されし石碑を見つゝ三丁ばかり境内に入り池の岸に來みれば十二三ばかりなる男生女生の一群落椿を投げ入るに鯉金魚など餌かやと浮び出て、はバクリ〳〵と音のみたてゝまた沈み行く遂には水も濁りて幼子がなげやりしふはあだに浮べるまゝ手打ちたゝけど一尾だに出て來んさまもなしこゝを通りぬけ小さき澤邊に出づ露もしたゝらんばかりの根芹籠一ぱいに摘み入れて行くほどに麥畑すゞろ花咲くあぜ道にすみれたんぽぽ折々はわらびぜんまい三四寸ばかりの山蕗もあり珍らしう其處こゝ求むるにかたえの岡の上人も手つけねばにや一層多しやうやくにはひのぼり餘念もなき折柄何處よりか大聲に呼はる己等がともおもはず腰のべて見廻せば遙かなたにほゝ冠りの野良人らしきが此方に向ひ手ふりつゝあり何とぞと耳かたむくれば「其處へ登るでねえ」と腹立しげなり氣のつかざりしをかしさそしのびてころげんばかりに下れは下にいませし母君のあはて逃ぐるさまはよとて笑はせ給ふしばしなりけれど摘みためし草々を歸りて椽にひろげえり分くのびろの玉のなきは力弱き人のわざよつく〳〵しののびきりたるはせんなし誰が折りし此ぜんまいの太さよ是は誠のものならじ犬ぜんまいとかいへるは此事よなど口々に己がまゝなるとゞもいひ笑ひ合へる傍より幼子のとり捨てし土塊根なんどせつかくえり分けし籠の中に入るゝひつくり返す止めよと云ふなどなか〳〵に賑はし夕は都より父君も來まして菜づくしの料理參らするに鶯のやうなといはせ給ふにまたも大笑ひとなりぬ實に彌生の樂しさのどけさ笑ふものは花ばかりかは。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人大革新 社告第一面に掲載せり

料理の栞

家庭簡易 西洋料理法

私立英語專門櫻井女塾長 櫻井ちか子

STEWED CHICKEN.

Put the chicken into small pieces, a stew pan, partly cover with boiling water and simmer until quite tender. When nearly done, add a teaspoonful salt. Dish. Moister two tablespoonfuls flour with a little water stir into the chicken liquor until it begins to boil. Now add salt and pepper to tast and one half cupful of milk.

Take from fire and add the yolk of one egg, well beaten, pour it over the chicken and serve.

雞のスチュー（煮こみ）

△製法▽ 一羽の鷄を小さく（骨なく一二寸位）切りて鍋に入れ肉の半分隠れる位煮湯を入れて除火にて煮、其肉が柔かになりたる時に小匙一杯程鹽を加へて其肉を皿へ取り出し置き、スープ匙に二杯位のメリケン粉を水にて溶き其汁の中へ攪き混ぜながら一旦煮立させ、又鹽と胡椒と五勺位の牛乳を混ぜ火よりおろして後其汁の熱い内に玉子一つの黄味だけを溶いて混ぜこみ前記の鷄肉の上にかけるのです。

△注意▽ 湯でたる馬鈴薯の熱きものを前記の鷄肉と添へて其上へ汁をかけても宜しいのです。

▲正誤▼ 前號所載のかすてえら製法中「好く攪混ぜて後」（終より二行目）の下に「粉を加へ又其中に前記の白味を加へ、輕く攪き混ぜて後」と入る。

一口噺

山形 阿部さゐ子

餅をつきながら

甲「ことしの餅は何うして此んなにねばたいらう。

乙「さうす、天然痘が流行するからだらう

文字の誤り

末摘花

▼瑕▼瑾 瑕と瑾とは反對の詞で、醜美、惡善と云ふが如き例である。瑕は玉に疵あるものを云ひ、瑾は好き玉を云ふのである。夫を近來は誤つて單に瑕の事と心得て居る人のあるは笑ふべき話である。瑕釁と書くか、微瑕と書くべきである。「大功不レ顧二細瑾一」など書きたるものあれど「大行不レ顧二細謹一」の誤りである。大なる事業を成すものは、些細なる禮儀を顧みなくも可なり、と云ふ義で、此詞は史記鴻門之會にあるのである。

▼譬▼と▼例▼と▼縱▼令 「譬へば」は或種類の異なりたるものを借り來りて云ふことである。例へば」は實例を擧ぐる時に用ひ、「縱令」は又假令とも書く、よしんばの意で縱ひ死すとも退かず杯と用ふる詞である。

▼薄▼倖 近來は悉く薄命、不幸の意に用ふれど、實は浮薄輕佻の意で、杜牧の詩に贏得青樓薄倖名」とあるが何より證據である。

▼改▼良 これは明治時代の新造語であるが改は動詞て、良は形容詞であるから誠に可笑な詞である。漢文では改と云ふ字は、善に改むる意であるから、一字でも宜いのである。これは今更正す譯には行かぬから成るべく用ひぬやうに心掛られ度のである。

▼依▼囑 これも穩かでない。委囑と書くべきである。

▼金▼斑 かく書く人あれど、これは全豹の誤りである。「全豹の一斑」と云ふことから一斑を見て全豹を知る等と用ふる詞である。

▼倒▼と▼斃▼ 倒は單に物のたふれることで、暴風倒二民屋一」など用ひ、斃は殪と同じく生物が殺れてたふれるのである、刺客斃二大臣一」など此の例である。

▼充▼分 十分の誤、支那の俗語で櫻花十分など用ふる。

▼社▼界 社會と書かねばならぬ。社も會も人の集りて、社界では意味を成さない。

▼刺▼激 または刺擊と書くは何れも誤りて刺戟が正しい書方である。刺戟はトゲである。

▼記▼念 記念が正格である。然し今日では一般に紀念と用ひて居るから、强て改めなくも可からう。

▼證▼劵 は證券の誤り、劵は捲の古字である。

▼撿▼査 撿は音レンで手を拱く事である。これは檢査と書くべきである。隨分昔から誤れる詞で、璃撿校なども大抵の書には撿校としたものである。

其他斯かる種類のものは、極めて多いから注意して書かねと、つまらぬ事にて物笑となる事がある。

登録商標 （八）
本方 小兒虫一切妙藥 奇應丸
定價 金五錢 金拾錢 金廿錢 （遠國送料金貳錢）
東京市京橋區銀座三丁目
發賣本舖 （八） 松澤商店 （電新五三三）
賣捌は全國諸々藥舖賣藥店に特約あり

東京の女學校

相良崇陽

（二） 私立成女學校（上）

部下に瀰七の女學校あり、就て其の教育理想を聞けば、賢妻賢母を養ふにありといふにあらざれば、乃ち時勢に適合する賢婦人を養成するにありと答ふ、美しき此のいらへを得つゝ退いて其實狀を察するに、果して如何であらう。女學生といへば輕佻浮薄なる小女の集合體に冠せられたる代名詞かの如く擯斥さるゝことはあるまいか。彼等がやがて家庭平和の中軸たる主婦の位置を取りしとき、實務に通ぜず、禮法にならはず婦道を辨へずして却て平和を攪亂する惡魔のやうに罵られ呪はれしことはあるまいか。吾人は現今の女子教育界を觀じて敢て悲觀を懷くものではない、さりながら、世人が等しく女子教育の必要を認めながら、之に向つて深き同情を寄せざるを見ては甚だしく遺憾に感ぜざるを得ないのである。何故に社會は女子教育に對してしかく冷淡であるのであらうか、察するに現今女子教育の結果があまりにおもしろからざるに因るのではあるまいか。何が故に女子教育の結果は世人が慾求するが如くに好結果を齎さないのであらうか、これには幾多の原因と事情とがあるであらう、家庭の不完全なるも其一であり、不健全なる社會が及ぼして女子教育を障害するも其一であらう、更に吾人は學校當事者に其人を得ないのをも數えればならぬことゝ思ふ。如何なる方面に於ても完全な人を求むることは至難の事ではあるが、學校當事者にして徒らに物質的慾求にのみ腐心して、子女の精神的教育を等閑に附するが如きは全く沙汰の限りぞ有つて、かゝる教育家に導かれし子女が善良なる發達をなし得ざるは勿論往々にして墮落の淵に跳ふに至るは素より必然の事である。吾人は敢て部下の女學校を目して、かゝる山師の事業に等しき者なりと呪ふものではない、されど、常に同情の眼を放ち女子教育の發展を祈りつゝ、幾多の女學校を觀察するに時には營利的事業と心得うるかの如き狀態を認むることがないでもない。よし然らずとするも、たしかに華美を競ひ、虚飾を事として、眞に精神教育に重きを置かざるの如き觀あるを見ては少からず遺憾に思ふ次第である。要するに部下の女學校はいまだ以て安心し得べき程發達してゐない、乃ち多少の缺點を存じてゐるのである。さればとて此の間にありて比較的理想に近い二三の女學校を發見することも又困難ではない、吾人は玆に其理想に近き模範的女學校の一つとして私立成女學校を推擧し、其內容を紹介するに躊躇せないのである。

牛込區市ヶ谷富久町二〇番地といえば、市ヶ谷監獄の西方に當りて閑雅高燥なる土地である。此所に建てられたる新しき木造の二階建の建物が即ち私立成女學校の校舍であつて、極めて質實なる建築である。これぞ吾人の所謂模範的女子教育の施さるゝ所であつて、濁りに染まぬ幾多の淑女達が、恰も小春日和の暖かさに、谷の小川の眞清水の中に群れ遊ぶ小魚のやうに、極めて自然に、無邪氣に、優しう育てられてゐるのである。有識の士よ、試みに往つて此の校を訪れよ、然らば諸君は直ちにそのやさしく、のんびりして、いやみのなき生徒を一見して、一種の快感にうたれるであらう、而して親しく觀察したならば必ずや玆に美しきべき點は少くないけれども、特に取り立てゝ言ふべき校風の存在を認むるであらう。該校の特徴として稱するは、如何にも女を女らしく育てつゝあることである。虚榮に流ち、貴族的に傾きやすきは女子教育の通弊なるに反して、善良の意味に於ける平民的である、されば驕らず阿らざる間に自然に凛として犯し難き性情を貯えてゐる、淸洒たるなかに野卑のそぶりもなければ輕跳に走する憂ひも無い。合理的に、進取的方針を取つてゐるから決して因循に陷ることもなければ、突飛な出過者を生ずるやうなことも更に無い。該校に於て吾人は初めて、温良にして而も快活なる、着實にして勤儉なる、慈仁にして同情深き理想的婦人を養成しつゝある事實を發見するのである、されば生徒相互間に友情温かなること實の姉妹のそれの如く、師弟の情誼厚きこと恰も親子の間のやうである。加ふるに自治自修の精神に富んでゐることは殆んど他に類例を見ることは出來得ない程であつて、自ら其身を守りて、累を其教師にさへ及ぼさじとつとむる所爲を見ては、如何にもいぢらしく、ゆかしく感ぜざるを得ないのである。彼等が守つ特習に護はれたる淑徳が、眞摯な意味し事心修養に勉めつゝ他意なきを表すものとして而も生徒自身が案出せしものなりと聞かば、誰れか親愛の情を起さゞるものがあらうか。實に成女學校の校風はしかく美しいのである。そもそも如何にしてかゝる優しき校風を築き上げたのであらうか、これ何人も等しく知らんと欲する處であらう。蓋し同校は明治三十二年十一月、現に金澤第四高等學校校長にして、今に猶該校の顧問たる吉村寅太郎氏の創立に係る處なりと。爾來眞摯篤實にして溫厚なる君子人たる、氏は、理想的女學校を設立せんが爲めに現に同校理事として誠實勤直なる水谷直孝氏等の協力を得、初めて麹町二番町に其誕生を祝したのである。其後該校の經營に就ては、物質的方面に於て一通りならざる苦痛を感じた由であるが、たとひ事業とか、經營とかいへる點に、巧妙の手腕を缺いてゐたとしても、氏等の眞摯にして熱誠なる美德は、却て生徒の信頼と、社會の同情とを喚起して、常に物質的不滿を叫び乍らも、尙且精神的教育の步を進めつゝ、除々に其理想を實現し來つたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新らしき家庭

新婚旅行――新妻の部屋――洋行中の經驗――若い良人の化粧談――大磯よりの便り

「玉江さんお仕度が出來ましたか」屹とした眉の邊から艶々した頰が湯上りて仄のりと櫻色に上氣して居る色白の青年紳士が玉江の部屋の浪華簾を掲げてこう言葉をかけた此の青年は玉江の從兄て十日程前會社の夏休みて東京から歸省したのだが兼ての約束てつひ三四日後に想思の玉江と結婚を濟した許りの若い良人て今此處を音づれたのは明日新婚旅行と云ふ忙しい新妻の部屋を見舞ひに來たのて有る八疊の風通しのいゝ玉江の居間は薄絹の夏衣裳やら行李やら化粧袋やら一杯に取散らされて其の中に丸髷の艶かしい玉江は浴衣の袖て胸をあほぎながら繪に書た美人のやうに坐つて居る

「アラ良人もうお湯お濟みに成つて私餘り暑いもんてすから些とも片附かないて困るの」と窓の方へ向いた其の顏はポッと紅をさした「ぢや僕が手傳つて上げるから玉さんは早くお風呂へお這入り」と潔は足敏に庭に廻つてつと竹緣から座敷へ上ると薔薇よりも床しいクラブの香がはつと夕立前の蒸暑い四下の空氣を追ひ拂ふ

「オヤ」と玉江は可愛い眼を直視つて「私ね良人の今お使になつたお化粧品を當て見ませうか」潔は手に有つた薬袋をぽんと庭へ投げて笑ひながら合點く「ヂャ申上てよ」と細い肩を張つて「屹度クラブだわクラブだわねヱ良人お隱しになつても駄目よ實際に當つたてせう……」と潔の方へ膝を寄せる

「はゝゝ廢うも凄い眼力てすね、併し交際場裡に立つ者がこれを使ふのは當り前の事てせうねヱ玉江夫人！」

「存じませんわ、良人は夫れてお氣が濟むの？御自分許りそんなにお綺麗に遊ばして私には些ともクラブの事を敎へて被下ないのてすもの……」

「併し」と潔は眞顏に妻を見ながら「玉さんだつてクラブを使つて居るぢやないの」

「だつて……」と玉江は微に笑ふ「だつてもないもんだ」と潔も笑ふ

「だが玉さん」と穩かな調子て言葉を繼ぎ「僕は今度歸つて眞個に不思議に思つたよ夫れは玉さんもお花さんも元來其のお顏は實に綺麗には違ひないが廢うも一寸ソノ下手な市松さんのやうて氣高い皮膚の美に缺て居つた、だから自分ては美人の氣て居てもいざと成つて人中へ出て百合子さん抔と比べると活氣に乏しい艶のない顏の色はまるて病人のやうて美てないのみか見る人に由つては其美人の骨格をも見誤る事があるかも知れないのてす」此時玉江は美しい鈴のやうな眼を潔の顏に走せた、潔は餘り自分の言葉の鋭かつたのをハッとしたが素顏の玉江が微に笑靨を見せたので漸く安心して話を繼ぐ。

「處が今度玉さんに久し振りて逢つて全かり見違へて仕舞つた、始めは唯不思議の一點張りてあつたが玉さんの化粧室に有る有名なクラブを見て直に疑念が晴れたと同時に艶々した玉さんの素顏を見て廢んなに可嬉かつたらう、一體女として紅や白粉の不必要な譯は無いが夫れは充分生地を磨いた上の事てせう、何が美しいと云つて自然の美に勝るものは無いのに今迄の化粧と云へば婦人の柔かい皮膚に不適當の洗料――詰り舶來石鹼のやうな物て徒らに脂肪を殖し皮膚を燒たり又た柔かい皮膚を破める化粧水を塗つたりして熱心に美しくする事を望んても一向化粧の効能が見えない處から更らに長い時間を無駄にして白粉をつける是れては折角持つて生れた美しい皮膚を骨を折つて汚ごし美を遂に現す事の出來ない顏にするのてせう夫れも詰りは適當な化粧術が無かつた時代ては仕方が無いけれども今日の如うに新しい空氣を呼吸して內部から皮膚に美を添へ且つ外部からは十一種の原料て造つた洗粉が素顏を美しくするに尤も適當せる洗料てこれを使つて自分も滿足する事が出來たのてあるが東京抔ては宮中の女官達を初め一般の紳士や貴婦人もクラブの愛用者といふのを誇つて居る狀態て今まて石鹼やぬかて何とも云へぬ嫌な匂ひがした麴町の風呂までが此頃ては全てクラブの馨に變つて仕舞つたとの評判が立つ位てすよ、夫れも人に由つて性に合ふとか合はんとか云ふ洗料なら兎に角誰が使つてもクラブ洗粉と早朝の新鮮な空氣の呼吸法とは相俟つて確な美身料と成るのてすから此の樣な流行は僕も當然の事と思ひますよ、去年佛蘭西に居た時歐米て評判の高いウオッシングボーダーを使つて居たが到底滿足の出來る化品粧てはないのてす、併し何よりも滿足なのは玉さんの素顏が美しく成つた事てすが是れも全く百合子夫人のお蔭だから夫人に對して感謝しなければなりませんねハヽヽ」と如何にも愉快さうに笑ふ潔の淸い姿、玉江は何となく過し靑葉の頃が思ひ起されて璧の姿見に映る自分の美しい顏に思はずにつこりした。

* * * * *

潔夫婦が母や妹に送られて梅田を出發してから半月も經つと夏は漸く日を重ねて勞働をじない市人も照る日に燒かれ蒸す熱に疲勞れて血色は日增に黑く靑く變つて來た當時大磯から來た玉江の書信の一節は……

私が此處へ參り候後日々濱に出てゝ海水に浴し居候へ共百合子夫人の化粧談て感じ候例のクラブのお蔭にて日光にも燒ず潮風にも恐れず終日樂しく暮し居り候事を夫人に御話し賴まいらせ候

かしこ

大磯の玉江より

浪花の
花子さま御もとへ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人大革新（社告第一面に掲載せり）

俳句

内藤鳴雪翁選

天

春寒く鷗洲によるさゞら波　東京　加藤ふみ子

地

雨雲の朝暖かや木の芽ふく　函館　菅原よし子

人

殘雪や畦のしたなる寺の庭　函館　五十嵐やす子

秀逸

大鼓の聲にうたるゝ花すみれ　越中　永井千代子
羽織着て島見まはる彼岸かな　仝　仝　人
未だ明けぬ空や吉野の花櫻か　長崎　木原敦枝
落ちかゝる月に鐘の夜明かな　仝　仝　人
暁の水音さむし初さくら　仝　仝　人
ぬき捨てし木履濕たり春の雨　麻布　菅原のぶ子
淡雪のふりかゝりけり福鯛　仝　仝　人
梅は香を放ちもあへず暮来し　廣島　岡かつ子
溝は梅の實りや春の水　函館　菅能よし子
春の山捨てし女將の古わらじ　廣島　藤野錠子
陰響へし朱の御楯や春の水　函館　菅能よし子
梅日和椽に小猫のひるねかな　越後　阿部秀子
起こし田の何處に隠れて啼蛙　京都　嵯峨英子
積たはる長瓢たんや花ふゞき　函館　小川喜代子
雲にとぎるゝこゑのあらし哉　北海道　小野寺ちとせ
緒の切れし小さき草履や靄吹　岡山　西村昌子
捨られて牛の角ふるやなぎ哉　京都　とめ子
春の夜や例に響く鐘のこゑ　函館　中村こと
雲咲く春の野つらや牛のこゑ　函館　小川春子
流れ来る女の下駄や春の水　仝　仝　人
燕の来てとまりつ起ちつ霞哉　仝　小川喜代子
星一つ影さゝぬ田や鳴く蛙　京都　山本千代子
春雨やひらとく去年の旅日記　京都　山本千代子
苔のむす地藏の頭や春のくさ　仝　仝　人
雲のこゑ未だせぬに餘寒かな　大分　桂木清閑女
比叡の山雪積み乍ら霞みけり　山城　古川よね子
紅梅に箏の手やめて見とれ兎　青森　木村よし子
七重八重九重の梅句ひけり　仝　仝　人
白魚や河豚は　にえ肥て居る　三重　梅村きく
京人の衣裳くらべや嵯峨の春　丹波　中川たか子
帆舟かすみに入りぬ瀬田の朝　山城　古川よね子
鶯やまくらに知らぬ今朝の雨　四谷　中山正子
春の日の霞まれゆく童子かな　芝區　中隈ふじ子

出句者に望む

選者　鳴雪

□出句は成るべく一人五句位を要す。一人一句若くは二三句にては、添削に骨が折るゝのみならず。添削の出來榮もなく遂には渾て落選ともなるなり。之に反して句類多ければ、比較的好き句を成就するの望みあるものとす。

□出句に繪葉書を用ふるは不可なり。第一加點及添削を爲すに朱墨の彈け、或は色の上には、字形の分らぬことにもなる。又紙面に餘地少なき故多くの出句にも不便、或は多く出句したりとも細字になる故添削にも不便となるなり。

□繪葉書の繪に題するやうな出句あれども、是は此繪ありてこそ譯も分かれ。繪のなき誌上に載せては何の價値もなきことゝなる。故に此類は大抵落選して損を取るものとす。

□繪葉書の繪が美麗なればそれ丈出句が見劣りさるゝことになる。此點からも繪葉書を用ふるは損なり。

□要するに出句は技倆を誇示する爲にあらずして、教を受け技倆を習熟する爲なれば、成るべく句數も多くして、普通の葉書へ正しく文字を認めて、呈出さるべきものとす。左すれば選抜添削の上にも便利にして、其結果は毎回當選の目的を遂げ、倘進んでは天地人の優等にも登ることを得るなり。

□以上諸姉の自省を祈る。（二月廿二日）

小品文

—彌生—

編輯局同人選評

一等　東京　水谷光子

草履がき彌生の野を、仲よしのお友達と散歩したら何んなに愉快でしよう。美しう咲き亂るゝ花は、わが愛國婦人の誌上に似つ。櫻草は令孃、花菫は女學生、蒲英花は奥様、蓮華草は野少女、土筆は老夫人とも思はれて、そして其等は皆春霞のやうに靄々とせる愛讀者ではありませんか。

評。面白い御考へです。そして貴方は其中の何れに御當りて御坐いますか。

二等　越中　永井千代子

しめやかに降り暮したる春の雨、夕つ方晴れ渡りて、軒端をつたふ名殘の玉水と、たえんとするほど、露しげき淺茅の築山に、濡れそぼちたる海棠の、涙ぐみて笑顔つくれば、池の水際に影うつす柳も、亂れし髪を梳づる。石燈籠の蔭、含羞むさまに隱るゝ山吹の、七重八重咲きたわみたる下枝を、戯れ顔に吹く風のゆらゆらと打動かすに、眠り居し胡蝶ゆくりなくも露に打たれて、狼狽ひ顔に舞ひ出づる可笑しさ。げに彌生なかばの景色なり。

評。全篇錦繡の文字也、敬服。

三等　東京　中山由子

「お魚が煮えましたから、少し許り。…」
「あら！何うも有難う。」
彌生なかばの空は霞みて、長閑に暖かな日當りの椽側で、ぽちや〳〵と肥えた兒が二人、丸々とした影を障子に描いて、青草を刻み乍ら、人形を抱いてにこ〳〵と飯事に夢中の姿。椽の下にうづくまつて居たジヨンもあくびをした。

評。編輯室で選び乍ら、選者にもそんな時代があつた、などゝ思つた。

佳作

青森　留目文子

吹く風を袖に避けせつゝ、菜の花咲く小路を逍遙へば青々たる麥畑は、風のまに〳〵緑の小波を起す。長閑なる彌生の眺望よ。こゝかしこ櫻も咲き亂れ白雲のたつまひ、積れる雪かとも怪まるゝと許りなり。

評。文章流暢にして宛然春水の如し。

山形　阿部さわ子

そよ〳〵と吹く春風に、びんのほつれをなぶらせつゝ柴折戸をあけて小道に出れば、右手の町には四五寸ばかりの麥、青々と生ひたち、朝風にゆらけるさま見るからに心もすが〳〵しうなりぬ。左を顧れば鳥菜の尺にも足らぬに、黄なる花の二つ三つ、蕾を破りて笑そめたるに、白き蝶のひら〳〵と舞ひつ止りつ、する様の得もいはずゆかし。げに彌生こそたのしけれ。

評。繪の如き寫生文なり。眞妙。

越後　歌川みちの

うら〳〵と霞む日和に誘はれて、下り立つ庭の捨石には、幼き妹のすさびなる、雛の勝遊の餅添へしは菜の華、ところせきまで置き並べたるまゝ、主の影はあらず。池の汀の萱につゞく竹叢のあたり、目白のどかに囀づるもゆかし。

評。閑雅貴當、勉めて倦ずんは上達極りなけむ。

鹿兒島　藤野錠子

今日は向島、明日は上野と、都の花見もさる事ながら片田舎の景色こそめでたけれ。霞の奥に菜摘む少女の唄ふ歌も長閑に、一むら匂ふ櫻樹の蔭、そよ吹く風の自然の樂を奏する風情、またなく見えて、囀づる雲雀舞ふ蝶も、げに田舎ならではの趣きなり。

評。四季のながめは凡て都より、田舎の方優れたること選者も同感なり。

三重　中島千萬子

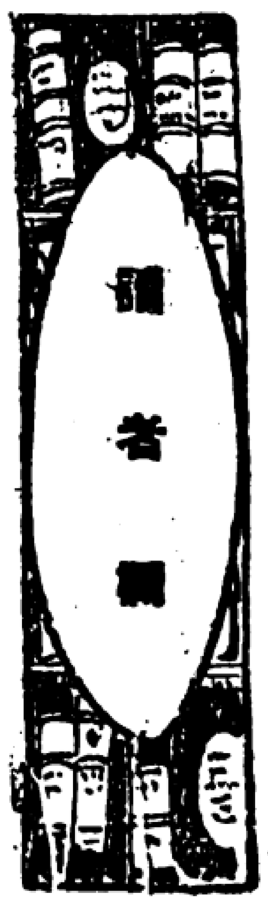
此頃は薄霞淋しき老人を、いかでうしとおもはまし、何にたとへん云ひ知らず霞にほへる春のあけぼの、さこそとくよりおきいでゝ心ちらさすのどけき花をめで給ふらめ。

評。佳、

静岡　安永みち子

秋津洲の春は爛漫とか、消えのころ雪に草も萌えず、五月雨ふれば花はやつれ、木蔭立ちよる人もなき、夕顔棚には劣りたりや、紅葉の袖はまさりたりや。露りこつ窓――炎火もえて、のぼるか舎天子の凱歌面白く彌生のみ空や忘れたる、花の彌生の香や知らぬ――。

評。餘り走り過ぎた氣味があります。意味が深くて面白い着眼ですが、少し朦朧に陥つたのは殘念です。



本誌に對する希望　▲文苑の所々に散したる、評のなきなどいと本意なう覺えられ申候成るべくは短文新體詩和歌俳句をみやすき所に掲げられ度、又題も同しき所にせられ度又選者の評を附せられ度ひとへに〳〵御願申上候（阿部さわ子）▽御注意ありがたう御座います。成るべく御望のやうに致しませう（記者）▲愛國婦人いつも五日發行が〻此頃は十二三日頃廿日發行が廿八日ならでは投入せられません今少し早く御發送を願ひたう存じます（松谷春子）▽京都の方は仝支部から御配達になるのです。本社からは大抵發行日の前日には發送しますが、それから遞送て御地の支部へ着るのですから多少遅れるかも知れません。然しなるべく早く配達するやうに話て置きませう（記者）▲記者様百四十五號に賞品發送の事が出て居りますが、私の新體詩「紅葉」や「新春の惑」や短文「冬の夜」や「平和の村」などは當選では無いので御座いますか御伺ひ申ます（矢須子）▽誠にお氣の毒でしたが、あの時は新體詩短文の應募者が無いので、選ぶ事が出來なかつたのです。然しこれからは大層盛んになりましたから選ぶ事が出來ます。貴孃もその御つもりで御勉強なさいませ（記者）▲前實の御賞物美しき繪端書賞品として御送與給はりかたじけなく御禮申上候一號毎に紙上の趣味多く相成り候こと深くよろこび申上候先は右までかしこ（箕輪貞子）▲一扇子、一繪端書十枚、愛國婦人百四十四號俳句人位に對する賞品前記の通り正に領收仕候依て御報知迄、草々（西山ひさゑ）▲拜啓昨日は早速賞品御送惠被下難有拜受仕候先は不取敢御返事まで申上候（栗原花園）▲今回はまた〳〵賞品主婦のつとめ御惠送下され御厚志の程深く御禮申上候猶ほこの後も及ばず乍ら勉勵致すべく候間相變らず御敎示願ひ上候（歌川みち野）▲殘寒の砌記者様御一同益々壯榮慈大賀居候陳者過日は賞品小包早速御送付下され難有拜受仕居候（文子）▲先日は第百廿八號和歌人位賞選賞品として美しき扇子及繪端書御送り下され有難く正に頂戴致申候間、御安神被下度右は御報かた〳〵御禮まで（石井俊子）▲今回は御殊勝の掛物軸一幅及主婦の務一册外に繪葉書深山御惠與なし下され辱けなく頂戴仕り候、猶此後も宜しく御引立下され度一筆に御礼がひ申上候、まづは御禮聞え上申候、編輯員御一同樣へもよろしくれがひあげ候（みち野）▽一等當選者湯淺とよ子姉へ賞品發送の處、住所不明にて戻りたり。▽前號當選者中鈴木はる子姉は至急住所を申出られたし。▽前號當選者には去月廿四日凡て賞品を發送しましたから御落手下さい（係）▲岡案は何紙を用ひますか、四六版ですか、四六版大とは何の位の大きさで御坐います（秀子）▽用紙は何でも宜しう御坐います、四六版は主婦之糧分などの大きさで曲尺で約そ横四寸三四分、縦六寸三四分位の見つもりです▲百佳選の和歌は別に題は御選びになりませんの、あの紙に題を書入るのですか（秀子）▽歌は當作ても宜しう御坐います題も御隨意です▲百佳選は一首には三首、用紙には一首とあり如何なる譯にや（はる子）▽用紙一枚に一首で用紙三枚に三首の割です（係）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人大革新　社告第一面に掲載せり

新體詩　編輯局同人選評

少女

一等　靜岡　安永みち子

うてなの殿の奥ふかく
いかなる君やいますらん
かたくとざせる花の戸は
何とふ人にひらくらん。

今を春邊の風ふきて
させる戸ぼそも現れぬ
朱の裳裾もこぼれ出つ
袖のかをりもゆらめきつ。

花守る蝶もうれしさに
翼やすむるひまもなく
あだする影や近づくと
守らるゝ身も夢のごと。

評。青春の少女の風情、歌ひ得て遺憾なきに近し。
又曰。一字の添削なも許さゞる事老手と稱すべし。

二等　廣島　金原直子

春の日野邊を夢の如
あくがれ遊ぶ少女子の
眸の色の輝やくは
いかなる影か夢むらむ。

世を吹く風のあらければ
心して行け汝がたどる
大野が原は草深に
毒蛇むれ居て得やは通さじ。

評。後聯莊重にして佳。
又曰。原稿少女を小女又乙女子と書けるは何れも誤り也。小女は小をんななり。乙女はおとめにて假名違なり。心し給へかし。因にをんなをおんなと書くも不可、おんなは老媼の謂なり。

三等　紀伊　西山數子

淺黃、だんだら奉納の
手拭を吹く春風に
天平振りもうちまじる
いぼつ少女の神詣で
袖ふりかざし廣前の
石階のぼるあてやかさ
繪卷にも似てゆかしけれ。

評。少女等が神詣のさま、巧みに現されたり。

秀逸　山口　河野梅子

花の香おくる春風に
匂ひ初めたる紅梅の
花か蕾かうらわかき
少女のむれを眺れば
五色に光るふり袖の
夏の虹にも似たる哉

評。少女を形容した前三聯も佳く振袖を虹に見たるも趣きあり佳作。

東京　水谷光子

○

桃咲く里の雛祭り
白酒まゐる少女子の
さと紅さすおもざしや
あどなき頰の片笑みに
蕾の花の馥郁と
香を包むこそうれしけれ。

評。桃の節句と少女、在りふれたる着想ながら、擧調整ひたり。

陸奥　木村てつ

○

ゆきたけ長き友禪の
模樣ほがらの振袖の
赤き八つ口數へては
羞ふ如くほゝゑめる
少女の背なにけむりつゝ
やゝに伸び行く黑髮を
とりあげ止めし姫御の
繪卷の花の咲きもせば
春とや云はむ陸奥の姫桃、

評。筆に任せて書き立てたるけはひ見ゆれど、猶すて難き趣きあり。

備後　天野園子

○

玉なまろばす歌聲や
花かとまがふ少女子が
摘みて束れし菫ぐさ
妹へのつとか春の日は
紅にほふ唇の
籠に充ちたる野の若菜
母へのつとか幼けなき
今か暮れなむ急げ家路を。

評。親を思ひ妹を思ふ其情あさからず

岡山　八木清子

○

心のとけき春の日や
雲に樂ゆる高千穗と
雨のあしたも霽の日も
たゆまず通ふ學びやの
花一枝をたづさへて
歌ふ少女のあどなさよ
むらさき袴、赤りボン
窓の『時』こそ尊けれ。

評。敎訓、露骨ならずして佳。

軸

誠之

あなさびし、かゝる夜なりき。
終列車、軋りし跡に
黑髮も玉の肌も
はや冷えて、あはれ少女の
安睡なし、地に俯伏せる
いたましき態てそ見しか。

月もまたさはさしぐみて
照りしらみ、醸みのさかりの
露霜の香もしめらひつ、
みとりける、——去年のかゝる夜。
いたいけの顏佳姿を
われはいま正眼にゑがく。

——四一、二——

こぼれ松葉

森田竹子

下

其中養家は商業に失敗し家族皆散々に別れて父と母とは僅の家產を集めて東都に隱れ今尙深川の片邊に佗しく暮し居候、妾は衣食に事かゝざれど正美が父今より六年前王子邊の或會社員となり五年越彼の地に勤め居り候間一度も家に歸り申さず家族をも連れ行かず只折々書面にて姑の安否を問ふのみにて候ひしが二年前其姑死去り候てより音信とみに絕え此方より書面遣し候ても返り言はなく、正美は中學に在姑は死去り下僕には暇を遣し情なき夫を恨みつゝも正美の事を思ひてす獨淋しく留守いたし居り候、寂しき心慰めくるゝは正美の外になく年毎に歸る暑中休暇を樂しみに儚き人の命とも知らずして互に慰め勵ましつ正美もはや四年生と相成候へば後一年にて中學も卒へる筈待つは長き樣なれど過ぐるも早し、大學卒へんも軈てなど思へば嬉しく語り合ひ候を去年の冬休千葉に敎鞭を取り居る叔父の許を訪ひ、歸りて心地例ならずとて打臥し候へども寒き日の旅なれば風邪もやひきけん靜に休まば程なく癒えむと心にも止めてありしを翌日も起き上がらぬのみか夕つ方は熱度甚う高まりて此處がくとて胸を抑へ苦しみ出し候に甚く驚き醫師を招ぎ父の許に電報かけなどし看護怠らざりしに翌日父の參りし折はいと心地よげに首を揚げ、叔父上の許より歸りなば久振にて君子樣を尋ね參らせんと思ひしに思はぬ病得て父上母上にいたくみ心煩はしたり、今日は氣も冴えくしたれば物食うべてん、母上柳川を、と請はるゝに早速作り遣り候ひしに甘しくとて充分喰うべ候まゝ此分にては程なく全癒疑ひなしと先心落居て木浴いたし居候處俄に苦しき氣はひなるに驚き飛び出て湯氣ふきも敢へず衣まとひて走り來て見れば、こは如何に枕邊に置きし金盥に眞紅の水滿々たるに胸ふたがりて、あゝ、と叫べば、何、と怪しみ問はれて、否とよ汝今たうべし物皆吐きて仕舞たれば、と事もなげに申置き候ひしが越えて翌日遂に歸らぬ旅に趣き申候、あゝ何處迄情なき我世に候らん身に替へて愛しき悴に逝かれ候ては何に生くべき命ならねど浮世の柵に塞き止められて現ともなく日を送り居候處夫又病を得て今秋より家に歸り藥餌とのみ親しみ居候其折四歲の男の子を伴ひ參り候夫の子の由にて候、今日は正美の一週忌に當り候へばかたばかりの供養營み暫時の暇得て墓に詣づれば線香の煙細く立ち登る石碑を埋めては止まじと樣にこぼれ松葉のはらはらと夕の嵐に散り亂れ申候

霜月七日　正美の母より

君子樣

注意

▽——社告——△

別項鳴雪翁の說の如く、俳句は一人五句位を投稿せられ度し。又新體詩小品文も可成多く寄せられたし。

きらぶの赤毛染に告ぐ

○二瓶一組小五拾錢○同大壹圓○送料拾錢

該液劑は獨逸國博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にして僅か十分間にて染上り黑き光澤を發し美麗なるは鳥羽の如し而して永久禿げる事なし其理由は毛髮中に硫黃質を含めるものにて此の硫黃質と液劑と毛中にて化合酸化硫黃となりて黑色を表出するものなれば禿る疑なきは明白なる事實にて皮膚に無害なるは弊店保證致ます

毛染所　東京京橋本材木町三ノ四　岡田藥店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人大革新 社告第一回に掲載せり

和歌

—春季雜詠—

大口鯛二大人選

一等 東京 川村 孝子

世の中の春にはもれし柴の戸をおとろかしけり鶯の聲

鶯のこゑにとはるゝ柴の戸はうき世の外の春やしむらん

二等 紀伊 西山 敷子

思ふとち野邊の芝生にまとゐして摘盡しつる花菫かな

心ゆくまとゐのさまにこそ

仝 青森 大森 信子

見せはやな都の人に鈴菜さき雲雀さへつる我か里の春

なつかしの里の春や

三等 廣島 竹入 勇子

春風のまだはた寒き朝またき森の木蔭に鶯のなく

仝 岡山 西村 清子

なつかしき友を送りて朧夜の月のかけふむ花の下みち

仝 三河 磯貝久ら子

心あらはかすみを出てゝ梅園のさかりを照せ春夜の月

四等

あたゝけき春の日かけの梅か枝をゑかける軒に小猫ねむれる　京都 渡邊 豐子

またなかき夜每〳〵のつれ〳〵に春霞のこわらいさつくらはや　徳島 平東 いて子

きぬ一重ぬかまくほしくおもふまて春あたゝけくなれる頃かな　大阪 十合 貴美子

さくら鯛つりする舟も見えぬまてかすみわたれり春の夕なき　仝 笹野 文子

磯崎によせくる波のおともなくたゝ靜かなるはるのうみかな　山城 古川 よれ子

うくひすのなてれきゝつゝ長閑なるかすみを分けて行山路哉　山口 末田 竹子

軒ちかく錦帳さくてふともかやとそこともわかぬ夕かすみ哉　越後 歌川 みちの子

山かつかたりたく柴のけふりよりかすみにけらし春の明ほの　山口 米田 眞節子

うくひすに我音聞けんふる里の軒のしら梅さきやいてしと　大分 桂木 清閑子

若菜あらふさとの小川もこほるまて春かせさえて淡雪のふる　越後 岡部 秀子

ゑなゐらかつもれとえひしかひもなく解けてあとなき春の淡雪　東京 中與 富士子

梅うゑてまてることしは鶯のことにおそくもおもはるゝかな　京都 津田 君子

夜每〳〵ゆめにかよひし古さとの花のさかりをひとりみるかな　横濱 鈴木 まつ子

五等

おこたりと我なとかめて鶯よはつれをきけはふみもよまれす　京都 池田 美登子

ほろ〳〵と梅こほるゝひとつ家にはるさめそゝき日はくれにけり　岡山 横川 明子

鶯のはつ音はいまた聞かされとさすかに春はのとけかりけり　東京 土師 利根子

梅かをるゆかしの宿になさの音の長閑にもれてうくひすのなく　京都 中川 たか子

面白きはな見のゆめのさなからにさめてもうれし春のあけほの　岡山 清水 梅子

ときはやま八千代かはらぬ玉椿久しきいろそまつにならへる　備後 天野 園子

花めせと賤のをとめかよふこゑもあさふく風に匂ふ梅か香　近江 萩原 學子

をさな子にさそはれ出てゝ老か身もかすみか岡に若菜摘む也　青森 大橋 入佐子

春かすみたなひきわたる鐘井にもほの〳〵みゆるふしの遠山　東京 飯塚 清子

玉たれのをすのひまもる月の影かすむも春はにくからぬ哉　京橋 仝 上

梅か枝にはつこゑもらす鶯はのとけきはるのしるしなるらん　丹後 安久 春子

菜つみて里の小女子のかへりくるふせ屋の柳はるさめのふる　越中 永井 千代子

六等

咲みてる梅のかをりにあこかれてけふもひれもす鶯のなく　愛知 山田 靜子

里の子のむれつゝ遊ふはなの野にかをりゆかしく春風そふく　神奈川 足立原 樵子

摘りてよと子らかせむるもおもしろし庭の木かけに來なく鶯　山口 萬田 眞子

ゆたかなる御代をうたひてすきをへす賤かすかたの長閑なる哉　青森 大橋 里也子

のとかなる野邊のけしきにあこかれてつみし若菜の籠も忘れつ　岡山 西村 眞子

あこかれし市の住居も來て見ればさらにこひしき春の山さと　鹿兒島 松村 壽賀子

梅近くあゆみしよれはわれもまたかすみのうちの人となるらん　堺市 金田 つる子

春風はいまぞ御山をや過き行し霞かとはかりはなのみたれや　讃岐 瀬高 いき子

いつくよりさそひ來にけん鶯の羽かせに匂ふ庭のしらうめ　日向 小林 芳子

そよとふく風に梅か香おくりきてかすめる月のかけの床しさ　三重 小島 絢子

溯きぬにつゝめる玉を見るはかりおほろにかすむ春の夜の月　長岡 三枝 しづ子

すき祭て一枝こひし梅の家あるしむかしのともならんとは　香川 瀬高 やす子

おへる子の一枝手をるはつさくらほめはやさるゝ親心かな　三重 荘司 種子

世の塵にそまぬいほりの梅か枝にれくら定める鶯のこゑ　仝上 仝 上

母君のかへりますまてこのまゝとたのみし梅ちりそめにけり　岡山 山崎 薫子

やゝたえし友のおとつれ氣になりぬとはゝや園の梅を手折りて　廣島 金原 なを子

書に倦みてひかり長閑き窓おせははら〳〵とちる梅の花ひら　岡山 入木 清子

花の加替せてかさりて少女子か花見のかとに送りて立ちぬ　青森 留目 文子

人の如あゆみつゝ來る春ならはむかへにゆかん霞はふれとも　京都 藤 夫佐子

もとともと打むれ立ちてかたりつゝ若菜つむ野の春やたのしき　神奈川 足立原 政子

敷しまのみちにもえつるなし草春のひかりに色まさるらん　仝 仝 とく子

あかつ鶯は高根にをさまりてかすみにくもるはるの遠やま　青森 笹田 正野子

遠近になくうくひすの聲はしていとのとかなる春の山さと　仝 大橋 玉子

おほろ夜の月に琴笛とりいてゝ手ならす庭にさくらちるなり　鹿兒島 藤野 錠子

青柳の糸のしつくのなかりせはふるともわかし夕くれの雨　三河 山內 經子

れせりつむ里の少女にさそはれていつしか遠く野邊は來にけり　福岡 登野 操子

むれつとひすみれ摘む子の影さへもかすみこめけり春の夕暮　青森 犬槇 かれ子

のとかなる春の光に山住のこゝろもひろくおもはるゝかな　豐橋 平松 いと子

きのふまで峰にかゝりし薄かすみ今朝はふもともかくしつる哉　堺市 金田 久子

春の日はまたあさけれとよひ〳〵にふかくかすめる目そゆかしき　三河 石川 るゐ子

●日本兒童研究會　同會にては左の規定により講習會を開き、以て兒童研究に關する學術の普及を圖ると云ふ。**會場**、神田區小川町小川女子尋常高等小學校、**期限及時間**、**第一期**（三月三日、六日、十日、十三日、十七日、午後六時二十分より午後九時二十分に至る）**第二期**（三月廿七日、廿八、廿九、卅、卅一日、午後六時より午後九時に至る）**會費及入會申込**、前納にて第一期第二期は會費各金六拾錢、兩期併せて聽講すれば金一圓なりと。入會希望者は便宜、東京本郷浸嘉町廿五、日本兒童研究會事務所。神田區和泉小學校內宮部治耶吉氏等へ申込らるべく、元良奥剛博士、富士川ドクトル三宅醫科大學講師等講演の筈なりとぞ。

愛國叢書第一編

女德論叢

▽五月下旬發行△
▽詳細は次號に掲載△
▽定價金二拾五錢△
▽郵稅金四錢△

愛國婦人發行所

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮內省御用達 **玉寶堂** 電話下谷（特九六五番 一二四四番）

季節草花 **半ゑり帯揚類**

○諸刺繍 絞り模樣 友染繡入 ○總絞り ○ショール ○襟飾ネクタイ ○男女方襟卷 ○帛紗 ○長襦袢 ○襦袢袖 ○伊達卷 ○前掛

新橋竹川町十二番地 電新二〇二七番 振替貯金口座第四四〇一番 本店 **ゑり治**

神田表神保町一番地 電話本局九五二 支店 **ゑり治**

新橋際 博品館內階下 ゑり治出張店

大日本女學會

△新學期を開き會員を募集す▽

●本會は女學通信教授の鼻祖にして明治廿八年創立以來四萬人の會員に女子必須の諸學科を講習せしめたり
●本會は伏見宮博恭王妃殿下を總裁に奉戴し鍋島侯爵夫人會長として會務を統べ第一流の諸大家講義を擔任す其基礎の確實なる講義錄の有益なる夙に世の定評ある所也
●本會は創立十週年に當り畏くも皇后陛下より御歌特賜の恩命を蒙りたり
●本會は明治卅六年以來宮中歌御會始に選歌の光榮を擔ひし會員五名に及べり其他文部省檢定試驗に合格せる者も少からず以て本會教授の効果を知るべし
●本會は高等科と普通科と二種の講義錄を發行す月謝は高等科五拾錢普通科貳拾五錢也詳細なる會則希望者には葉書にて請求あり次第進呈す

東京青山原宿二百十番地 **大日本女學會** 電話新橋一八三〇 振替貯金一一八三六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

フレスト洗粉

本品の特色は最も皮膚に有効なる原料を以て精製したる者なれば色を白くし肌を滑かならしむ

定價（袋入 貳錢 同 五錢 大袋 拾錢）（鑵入 七錢 同拾五錢 特別壹圓也）

本舗 東京牛込西五軒町 山本玉川堂

懸賞文學雜誌

女子文壇

▲三月一日 四卷四號發行

內容豐富 口繪美麗

每月一回發兌 大判百三十頁 口繪原色版 本密刷一枚 外繪手寫眞肖像入

安いこと天下無敵 ●價一冊拾一錢 ●共十一錢 半年分八十四錢（皆取揃あり）

女子文壇社發行 東京京橋大鋸町 ●賣捌店到處にあり（振替一七二九番）

投書は誰でもよい 課目 ○美文○お伽噺○新體詩○和歌○短編小說○滑稽談○新論文○日記文○短文○俳句○實用文○國語○文壇餘興○女子生活（賞外）○女學校案內○誌友倶樂部◎選評は皆當代知名の大家擔任外和者也◎評語は本誌に就て見よ

色黑き人に告ぐ

肌を艶白たらしめんと欲せば牛乳浴牛乳浴に勝るは

クリーム石鹸

香氣馥郁として香水匂袋の代用をなす

定價 小形十五錢 大形廿五錢 特五十錢

輸入元 東京神田久右衛門町 オーケー商會

一森式座椅子

特許第九〇一〇號

一箇にして甲乙丙丁の四種に變化す

定價

一更紗蒲團付 金六圓五十錢 特製 金七圓

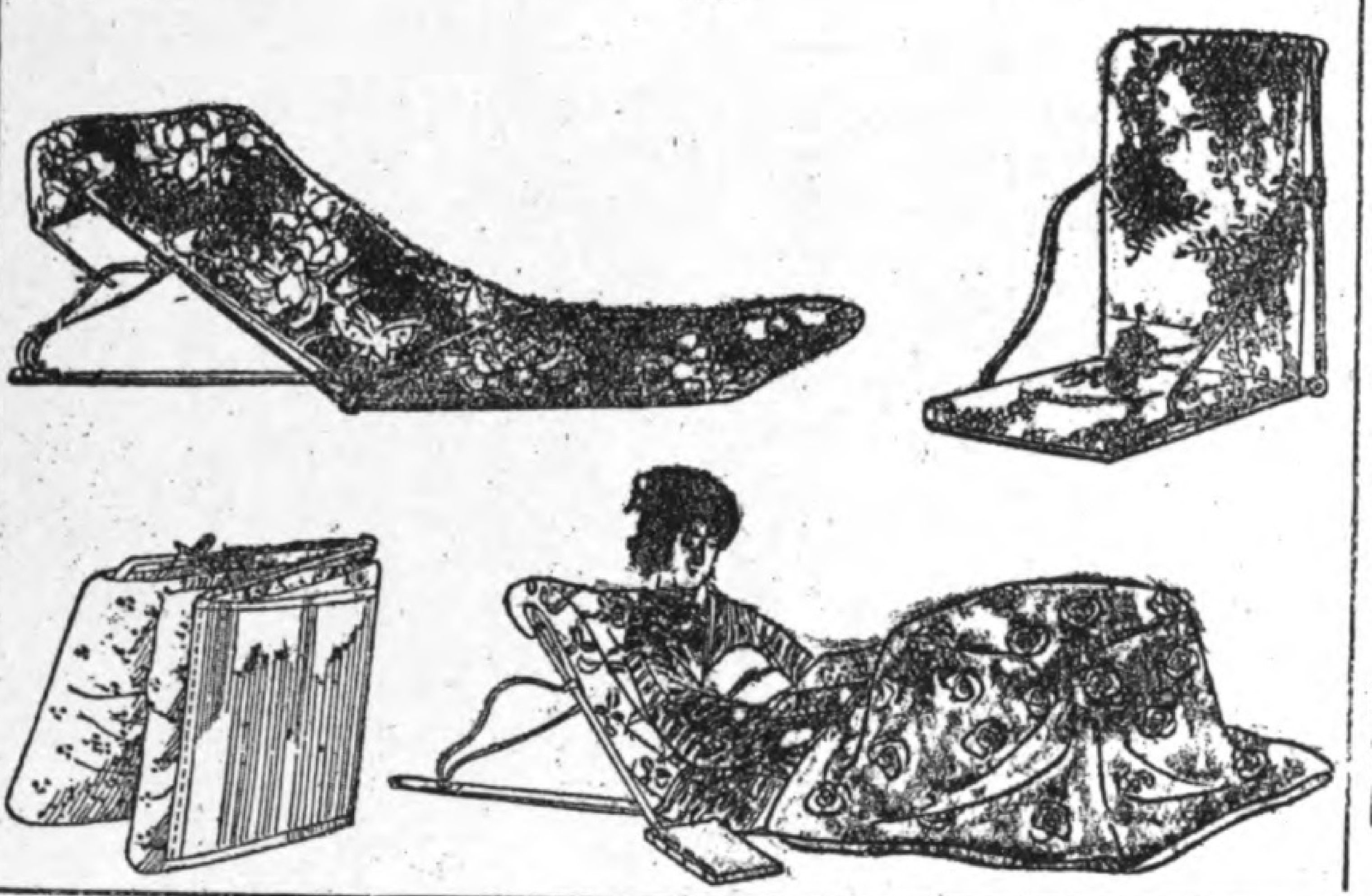
一メリンス友禪又は繻子更紗蒲團付 金七圓五十錢 特製 金八圓

（荷造費運賃共實費）

●右の內上等品は御好みに應ず

製造發賣元 東京芝區下高輪廿一番地（東禪寺電車停留場前）（電話新橋三〇六五番） 樂民堂

特約店 東京大阪 三越吳服店



ラクダ石鹸

本品は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故に一度使用せば其香氣五日間馥郁としてかほりを失はざる一大特點を有す

定價（大形金廿錢）（小形金拾錢）

東京日本橋區本石町三丁目 芳香練種別扁

本舗 井上太兵衛

虛榮を厭ふ人 虛榮を好む人 必ず讀むべし

女學世界

三月一日發行 八卷 第四號 正價十二錢 郵稅二錢

▼虛榮に呪はれざる生活……安部磯雄
▼趣味ある婦人……婦人記者
▼妾は何故に尼となりしか……堀井貞乘
▼虛榮の生活家（小說）藤浪子
▼世間を知るは奥樣の役目
▼世の飾りとして見たる女
▼女學生間の惡傾向 伊藤銀月
▼青山女學院寄宿舍 覆面女
▼最も手輕な子供服 美佐子
▼分娩一月後の母子 糸左近
▼迷信の科學的研究 山本迷羊
▼臺所に金を掛けざる工夫
▼妾は何故に尼となりしか
●與新婚夫婦 大町桂月
○幸福術の研究 前田越嶺
○繪葉書の活用 某夫人
○よしなし言 靜子
○私の希望 蒲公英
○貌の觀察 賤子
○彌生の空 杉浦翠子
●私の子供を亡ひし原因（横山隱士）
●桃に就ての種々の研究（林天然）

▼前金郵稅共 四冊…八十三錢 八冊…一圓六十一錢 十六冊…三圓十二錢▲

東京本町 博文館

日本一の！少女雜誌

少女世界

三月一日發行 三卷 第四號 ▼正價十錢 郵稅一錢 ●郵稅共四冊四十二錢 八冊八十三錢

●口繪 ●卒業式（彩色石版）竹坡筆 ●春の野（彩色石版）晩霞筆 ●二人づれ ●少女と梅 ●第一回愛讀者大會 ●女學校めぐり

●少女唱歌 歌へよ 田山花袋
●お伽小說 綠草紙 巖谷小波
●お伽訓話 錦の袋 石橋思案

●繪畫新題 ●白梅姬 ●花と少女 ●都だより ●雪子姬 ●海豹の敎

●三月雛祭 記者 ●少女小訓 小波 ●櫻繫編物 とみ

●懸賞發表 ●黃金の蓮華 ●雛祭に招ぐ ●續炭火物語 ●蟻卷のお乳 ●よの子の歌

東京本町 博文館

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋內）

日本興業銀行

電話本局 一、二八〇番 三、三〇〇番 四一〇番（特）三七番 一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目

一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

小栗風葉君著

天才

▽定價七拾五錢△ ▽郵稅八錢△

これ風葉君が其一代の心血を傾注せる新刊の大傑作たり。陽春の天地に必讀の好小說!!

發兌元 東京京橋南鍋町一丁目 隆文館

折疊 藤井式衣桁

定價 甲 六圓 乙 五圓五十錢 丙 五圓

東京市麴町區三番町廿九番地 製造販賣 藤井兵太郎

●大聲發音器並に音譜

○餘興にも參ります

直輸入 定價表 唄目錄 進呈

東京市神田鍛冶町 蓄音器商會 長電話本局二四九二番 振替貯金口座一三二八〇番

東京市日本橋區通一丁目

合名會社 森村銀行

電話（特）本局六七三番 電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日步 八厘
小口當座預金 同日步 壹錢壹厘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫院案内

院長 醫學博士 榊順次郎 婦人科 産科 毎日午前診察
副 醫學士 久保徳太郎 婦人科的外科 外國留學中
副 醫學士 田代謹二 婦人生殖器病 泌尿器病及內科一般 火木土午後診察

婦人科産科 榊病院
●施診火木土自午後一時至二時
麹町區三番町三三（電話番町三九九）

院長診察月、水、金、午前、松田醫學士診察火、土午前、窮者施診火、木午前入院診斷後隨時應需
松田、林、兩副長ハ目下當院ニ在勤、
電話本局八八八（病院用）八九八（私宅用）
東洋内科醫院
東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）
院長醫學士 高田耕安

神奈川相州高座郡茅ヶ崎村濱（停車場所在）
南湖院
河野、中村、兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後○同時窮者施診
副長診察月、火、水、木、金、土午前
○入院診斷隨時應需○

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
峰内科醫院
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世

午前宅診午後往診 入院隨時
内山小兒科醫院
淺草區下平右衛門町十七番地
柳橋通り（電下二三六五）

小兒病診療 宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
●電話下谷七一八番

●午前 自宅 神田多町壹ノ八
●午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町
腦病脊髓病
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇 神經痛運動障害等
醫學博士 土田卯三郎

内科專門 神田區駿河臺 電本一六六九
杏雲堂醫院
院長醫學博士 佐々木政吉

内科一般 午前宅診 午後往診
東京神田美土代町三丁目十九番地
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

産科婦人科專門
診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科醫院
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番
午前診察 午後往診

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）
診察時間 自午前九時至正十二時
内科婦人科 院主 岩佐純
内科 院長 ドクトル 岩佐新
（獨逸留學中）副院長 醫學士 高田壽
外科 醫學士 山村正雄
産科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

◉**婦人病專門** 院長 櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮様前 電話新橋三三二四
櫻井醫院

○院長 ドクトル 木村順吉
京橋丗間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）
婦人科産科 木村病院

◉婦人科 ◉小兒科專門 午前宅診 午後往診
東京市麹町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

齒科 治療 ドクトル 齋藤清太郎
麹町有樂町帝國ホテル向（電本千五百十九）

肋膜炎、腎臟炎
菅能内科醫院
體格検査（官公私立學校 及検定受驗者）
神田錦町正則英語學校前（電本二二五六）

耳鼻咽喉病診察
淺草向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院

水原産科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院内ニ産婆學校アリ

京橋區南大工町三
岡田病院
●（火木土）院長醫學博士 岡田榮吉
●（月水金）副院長醫學士 久野正太郎
●電話本局二四〇一

内科 外科 産科 婦人科 耳鼻咽喉科 皮膚科 梅毒 泌尿器科 各專門分擔
東京病院 芝愛宕町 電話新橋（二六四）（二六二〇）
院長 醫學博士 男爵高木兼寛

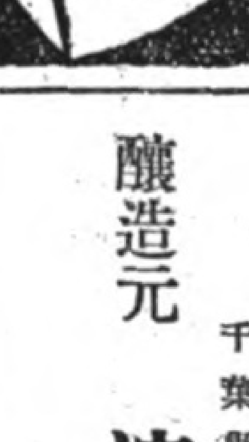
小兒科專門
瘰癧症（腺病）小兒貧血症、結核性腹膜炎、腹水、（脹滿、脾疳）小兒皮膚病、百日咳
小兒ノ虛弱體質ハ前記ノ症ニ罹リ易ク動スレバ不治ニ陥ル余ハ獨逸留學中研究セシ體質強壯法ヲ以テ斯病ノ豫防及ビ治療ヲ施ス
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
東京日本橋區數寄屋町一（電本百八十）

胃病良藥 **太田胃散**

宮内省御用達
最上醤油之元祖
開業貳百六拾四年
醸造元 下總銚子町 濱口合名會社
振替貯金口座五〇貳壹番

最上醤油
品質ハ 印ト 少シモ 異リナシ
發賣元 日本橋區小網町三丁目廿七番地 濱口吉右衛門
醸造元 千葉縣銚子町 濱口吉兵衛

資本金八百萬圓
東京京橋區木挽町 株式會社 **十五銀行**
電話新橋（一三〇〇番）（一五三〇番）（三一九三番）
同日本橋區新乗物町 同 **日本橋支店**
電話浪花（一九〇一番）（三二七四番）（三五〇八番）
一 定期預金 六ヶ月以上年五分
一 當座預金 日歩七厘以下
一 特別當座預金 同 壹錢

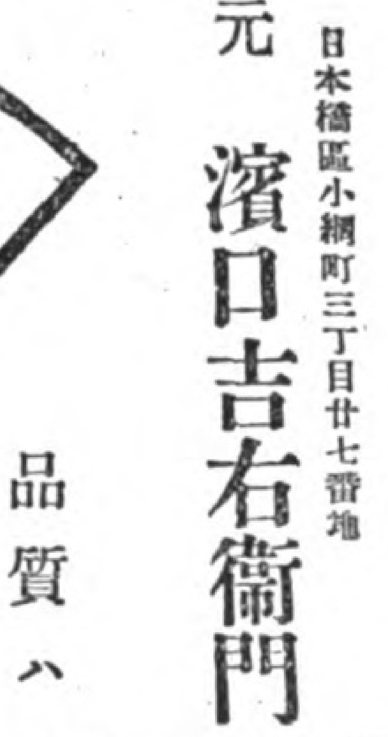
登録商標


Crème Simon

皮膚の營養上 衛生 美顔 **容貌の美**のために特に薦撰する良劑『シモン、グリスリン、クリーム』

『シモン、クリーム』は近頃の製造品ではありません久しき以前より御使用と御評判を受けて居るのであります

『シモン、クリーム』は一種の強壯劑と皮膚を柔かくする藥劑とを配合して製造したる衛生上無比の良品であります



『シモン、クリーム』は皮膚を白くし且つ滑かにしイ表面がすべ〳〵となり又天鵞絨の如く艶麗ならしめ又快よき香氣を發します毎日御化粧の時に使用になれば何時でもつやつやしき容貌を保たれます

『シモン、クリーム』はヒヤ、アレ、日にヤケ、汗も、ニキビ、唇のわれ、霜やけ、赤ら顔、又は毒虫に刺された時にお塗りになれば僅かに少時間で其効能が分ります又髯剃の後や小供衆に塗抹しますとすべ〳〵として大變氣持がよく、又美しくもなります

本品は販路が益々擴張されるに從ひて似物が多く市場に出て居りますから御求の際は「シモン、クリーム」「粉をしろい」「石鹼」共特に登録商標を御確めの上御購求願ます東京及大阪の三越呉服店を始め各地の洋品店化粧品店に販賣致して居ります

日本代理店 横濱七十番 エー、ハイム商會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

草村北星著

想思怨 定價七十五錢 送料金八錢

露子夫人 定價七十五錢 送料金八錢

澄子 定價金六十錢 送料金八錢

百合子 定價七十五錢 送料金八錢

TAKA-DIASTASE

タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。

高峯氏發見消化新劑

完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、每瓶強度均一にして、又其効力永久不變なり。

醫師及藥舖諸彦ー模造品製造者の誇大なる虛僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の實品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徵し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店 東京南茅場町 三共藥品合資會社

私立東京女醫學校

●五月一日新學年開始●入學試驗四月廿五日●高等女學校卒業者無試驗●規則郵券三錢●入學志望者は四月廿日迄に入學願書を東京麴町區飯田町四丁目九番地事務所へ提出す可し

前期生百名 後期生五十名 **募集**

本品は畏れ多くも

常宮殿下

周宮殿下

富美宮殿下

泰宮殿下

御使用品

高等香油

チエリーオイル

紳士貴婦人令孃用

千九百七年式巴里流行

乳狀薄化粧料

フエスクリーム

珍ら敷新輸入品

最も日本婦人に適し皮膚の營養滑澤に實効ある

佛蘭西新式煉白粉代用品

本品は顏を洗ひ乾きたる後少量を萬遍なくぬり摩擦すれば實に得も云へぬなめらかによきつやを出し香氣よくあれを防ぎ白粉やけ皺のよる憂なし又ゑりの汚れることなき嶄新良好なる薄化粧料として紳士貴婦人間に高評あり

定價一瓶三十五錢全國到る所の賣藥小間物化粧品店にあり

東京市日本橋區本町二丁目 チエリーオイル本舖

發賣元 高橋初次郎 振替貯金口座一〇九三二番 電話長本局四一一三番

色白くつやをだす

松澤ホーサン石鹼

大形一個廿錢 小形一個十錢

(にせ物)あり右商標と松澤名義に注意

東京本石町四丁目 松澤常吉化粧品部

家庭寶典

和洋裁縫大全

●全三拾冊 ●再版

●題字。序文。 久我侯爵。大隈伯爵。澤柳文部次官。坪井理學博士。小杉文學博士。井上文學博士

●序文。 公爵母堂近衛貞子。侯爵夫人鍋島榮子。伯爵夫人柳原花子。赤堀[illegible]教[illegible]家。子爵夫人入江信子。男爵夫人千家俊子。

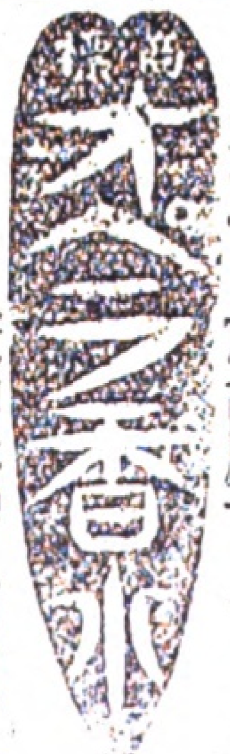
●女子裁縫高等學院校長小出新次郎著

●豫約申込期限は三月三十日限●見本、豫約方法、主要項目、入用の向は端書にて申込あれ直に進呈す

本書は斯道の大家として世に識れたる女子裁縫高等學院校長小出先生が一世一代の事業として積年教授の間に筆を執られたる者にして獨り資料の豐富なるのみならず何れも工藝上の原理原則に法りて說き起しあり而も通俗的にして其說明の親切丁寧なる斯道の參考書としては古今無比の良書であります

●發行所兼豫約申込所 東京市青山原宿貳百〇九番地 女子裁縫高等學院出版部

●豫約申込所 東京神田 東京堂 大坂市久寶寺 前川書店 大阪心齋橋 松村書店 京都烏丸 東枝律書房 廣島 積善館 宇都宮 宇都宮書店 福岡 博向堂



久邇宮妃殿下御用調製買上之榮

大一圓八拾錢 小四拾錢 携帶用廿五錢

松方侯爵家御愛用

東郷大將邸御家用

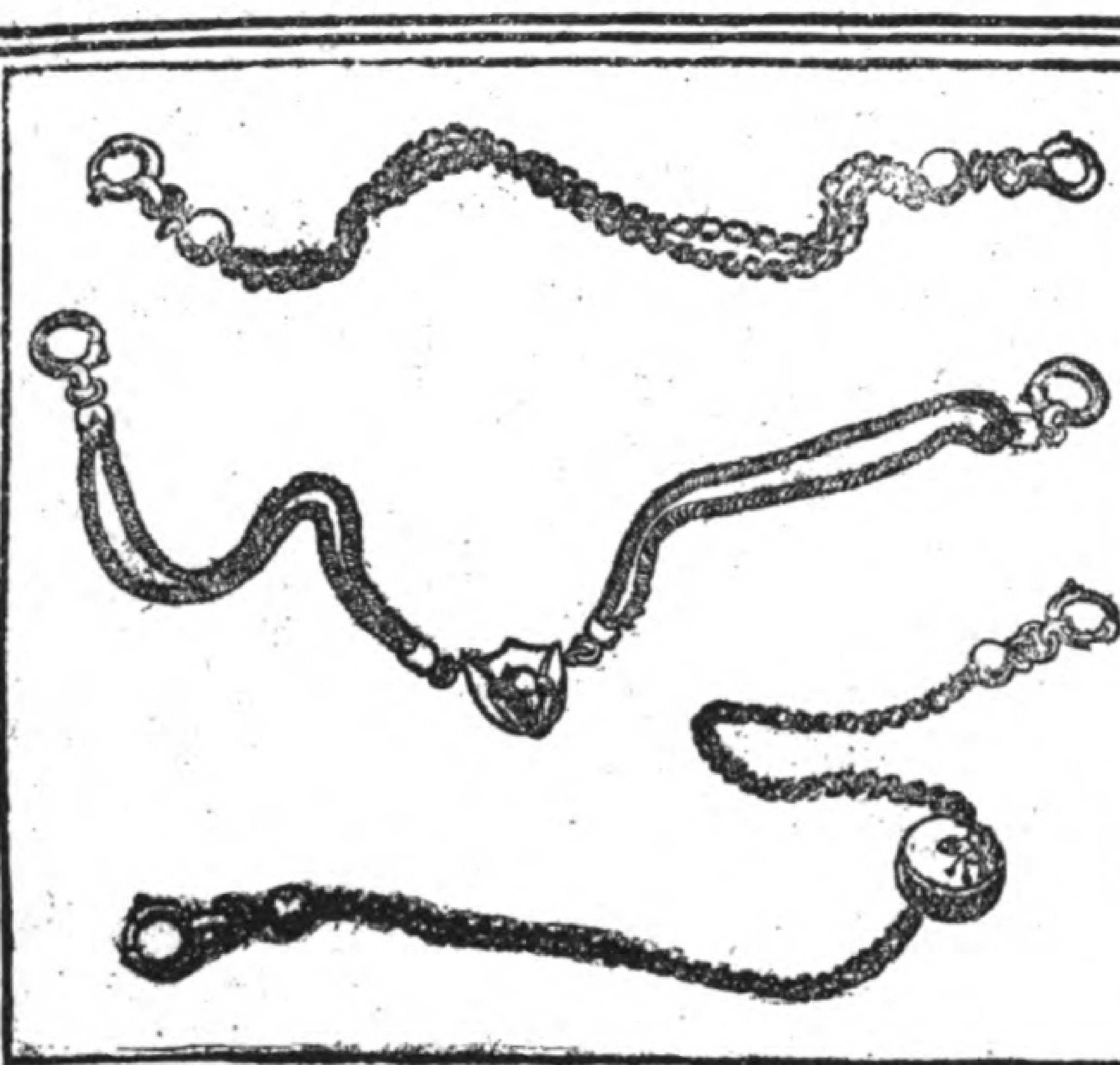
伊東元帥邸御愛用

大五拾錢 中三拾五錢 小貳拾錢

發賣元 東京日本橋區米澤町一ノ一 鳳舞園 電話浪花四〇三九番

全國の信用ある化粧品賣藥店にあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



金製羽織紐

現今御婦人用裝身具として金製羽織紐は最近の一大流行に有之候本店は圖の如き形の最も新らしきを撰び緒〆模樣の彫刻等に意を凝らせし品數取揃有之候間流行に遲れ給はぬ内御用命あらんことを

定價
拾八金一本立形　一金六圓ゟ八圓
拾八金二本立形　一金九圓ゟ拾參圓
拾八金製自在形　一金九圓ゟ拾五圓
金製緒〆寶石入　一金拾五圓ゟ四拾圓

東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
電話新橋五五一番

カナリヤ花洗粉

●容貌の美醜は化粧法の巧拙如何にあり
艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀なる美貌は最新の化粧法により配劑せられたる高等美身料カメリヤ洗粉の常用により顯はる

定價
大瓶壹圓廿五錢
小瓶同　十五錢
大袋同　五錢
小袋同　三錢
罐入同　十三錢

發賣元　東京　大阪　**小林富次郎**　天津　漢口　上海

最上醬油
キハク印
於聖路易博覽會名譽大賞牌受領

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門
信號(キハク)又(ハク)

キハク印
醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七四

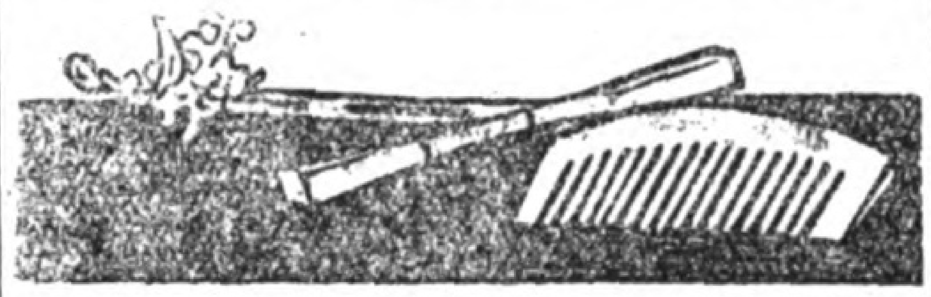
最新流行せる
羽織紐
帶締め紐
其外組紐一式

共進會銀牌受領
宮内省御買上ノ光榮ヲ得タリ
煉香油 パピール
日本發賣元東京平尾賛平商店

本場の特色
あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し市内無代價で配達致します
東京新橋角
帝國博品館

毛はへ藥

妾事薄毛にて種々藥を試しも効なく醫學博士令夫人より奇藥を得薄毛も濃くなり生へざる所迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに三百有餘の禮狀を受け不思議のまゝ尚困難者へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……
東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子



流行の
櫛　簪
鼈甲　金　銀
寶石細工
染髮用品

隆文館書目

婦人と小兒	定價八十錢 郵税八錢
粗食養生論	定價廿五錢 郵税四錢
割烹新書	定價八拾錢 郵税八錢
宗教講話	定價九十錢 郵税八錢
哲學と人生	定價壹圓 郵税八錢

婦人帽子
毛布膝掛
小兒帽子
教育玩具
リボン造花
手袋沓下
西洋小間物

東京牛込神樂坂
朝日堂

西洋小間物
帽子各種
中久商店
東京神田小川町通

特色

現社會の二大問題たる婦人と小兒に對し人類學的見地より根本的原始的に攻究説明したる唯一の大著述

婦人と小兒

理學博士 坪井正五郎著

定價金八拾錢

掲載要目

▽日本婦人▽アイヌの女▽諸人種の婦人の化粧▽配偶の撰擇▽夫婦の關係▽小兒の習慣

世評 婦人の化粧、服飾、婦人の仕事、親子の關係、小兒の習慣動作等を記述したる書なり(讀賣新聞)

京橋區南鍋町一丁目二番地 隆文館

如斯有益なる雜誌を讀まずして幸福を得る婦人やあり

婦人世界

三月一日發行 第三卷第參號 一冊拾五錢郵税壹錢五厘六冊郵税共九拾錢

◎斯くの如き妻君は決して成功せず……清風

◎婦人の愼しむべき服裝……西田女學館幹事

◎女の手紙に最も多き缺點……鹽井女子大學講師

◎弦齋夫人料理談

◎面白き少女欄

大好評 男女結婚論 村井弦齋

△媒酌人は何人に欺かる、か △如何なる者が媒酌人か △壓制結婚は見合ひを要せず △見合ひは人の平生を見ず…… △相縁奇縁は滅多になし… △聞合せもアテにならず… △見合ひは多く一度なり… △本人より親が見合する

◎注意すべき小兒の種痘……加藤博士

◎齒並は如何にして美しくすべきか……寺木ドクトル

◎私の長壽生活法……七十歳 棚橋絢子

◎安産は如何にして得るか……(榊博士)

◎婦人記者の實歷

◎種々な懸賞募集

◎教場にて實見せる生徒の惡癖三十ヶ條……山脇房子

婦人世界の姉妹雜誌

少女の友

第壹號 二月十一日發行 一冊拾錢郵税壹錢 六冊六拾錢郵税共 千七百餘點の景品 附繪葉書添ゆ 弦齋氏傑作を初め皆有益ゝ 第二號三月十日

東京京橋南紺屋町十二 實業之日本社 振替貯金參六番貳捌 各地賣書店

Always get the Emulsion with this mark—the Fishman—the mark of the "Scott" process!

肺炎に罹りたる後スコツト乳菓を用て健全となりたる例證

愚息儀肺炎に罹り滿三ケ月間伏蓐罷在り萬一回復するも結局は肺結核となるべしとの事にて總身肉落ち骨顯れ見るも不憫の容体と相成申候然るに醫師の勸告に由りスコツト乳菓を服用せしめ候處未だ一壜も飲み盡さゞるに食慾大に進み總ての經過良好となり現今にては却て罹病前の何れの時よりも健全にて相替らずスコツト乳菓を嗜好致候拙者共はスコツト乳菓が愚息に與へたる好果を親て右愚息の平癒を以て全くスコツト乳菓の効驗の致す所と確認致候

千九百六年三月十一日

シーフキルド、ドールセット街六拾三番地 ジョン、イー、プレーキー

右快復の理由

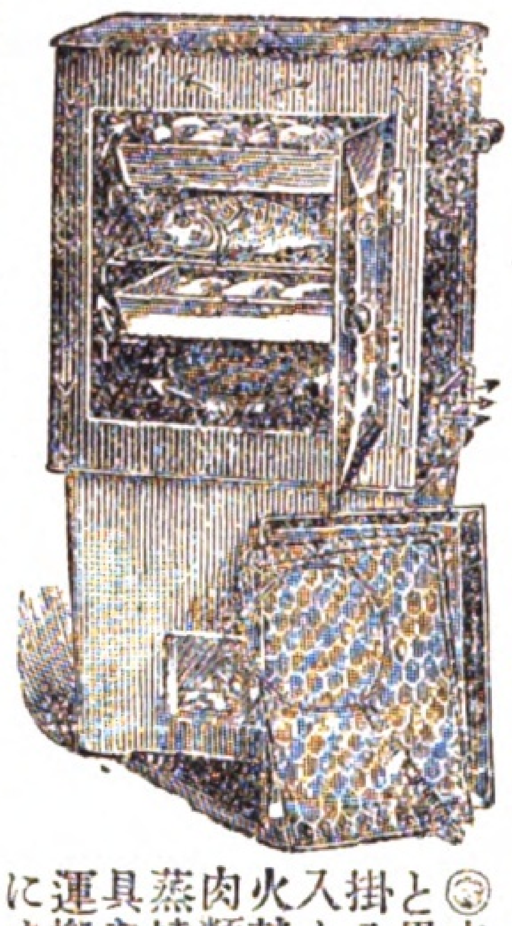
右ジャッキー、プレーキーが肺結核とならずして快復したるは全くスコツト乳菓中に含有する優逸なるロフオテン大口魚肝油(最上等にして最高價なる肝油)が其肺臟を滋やし其全身に良好堅硬なる筋肉を造成せしむるの精力を有したるが爲めなり

他のありふれたる大口魚肝油乳菓は斯くスコツト獨得の完全なる製法に由りて充分に消化し易くせられたる最も純良にして最も活力に富める肝油にて製せられたるものに非らざるが故に斯の如き偉功を奏する能はず

包裝の大口魚を負へる漁夫は前述の如き驚くべき快復が唯偶然のことに非らずして確實の事實なることを保證す

專賣特許

名和式蒸燒器 一名(テンピ)



◎本器は圖の如く在來の(テンピ)と異り頂上に火を要せず火地輪に掛ければ火力は下部中央の穴より入り室の上部中央の穴より平均に周圍に普及し迅速に魚鳥獸肉類或は(パン)玉子等を加減よく蒸燒き得る輕便經濟なる嶄新の器具なり手數と時間と燃料を節減し運搬輕便和洋割烹一切を迅速完全にする家庭臺所に必要の良器なり

▲定價(大)金貳圓七拾錢(中)金貳圓二十錢(小)金壹圓七拾錢 ◎販賣御望の方は御相談に應ず

製造發賣元 東京市日本橋區蠣殼町二ノ一五 電話浪花千百七十七番 名和商店

立志小說 觀音堂 續編

堀内新泉著 價四拾五錢郵税六錢 ◎美麗口繪挿入!!! 前編 再版出來價四十五錢税六錢!!!

本書は立志小說界泰斗堀内新泉氏の新著なり運命の爲に飜弄せられし一貧兒が觀音堂の殿前に於て大恥辱を受け奮然蹶起自己の手腕に鞭ちて健闘勇戰竟に一世の大實業家と爲るの徑路を寫す編は續編に至りて益佳境に入る讀者若し此續編を讀む頭髮逆立天の一方を望んで大に爲すあらんとするの志氣を振起せしむる者あるべし

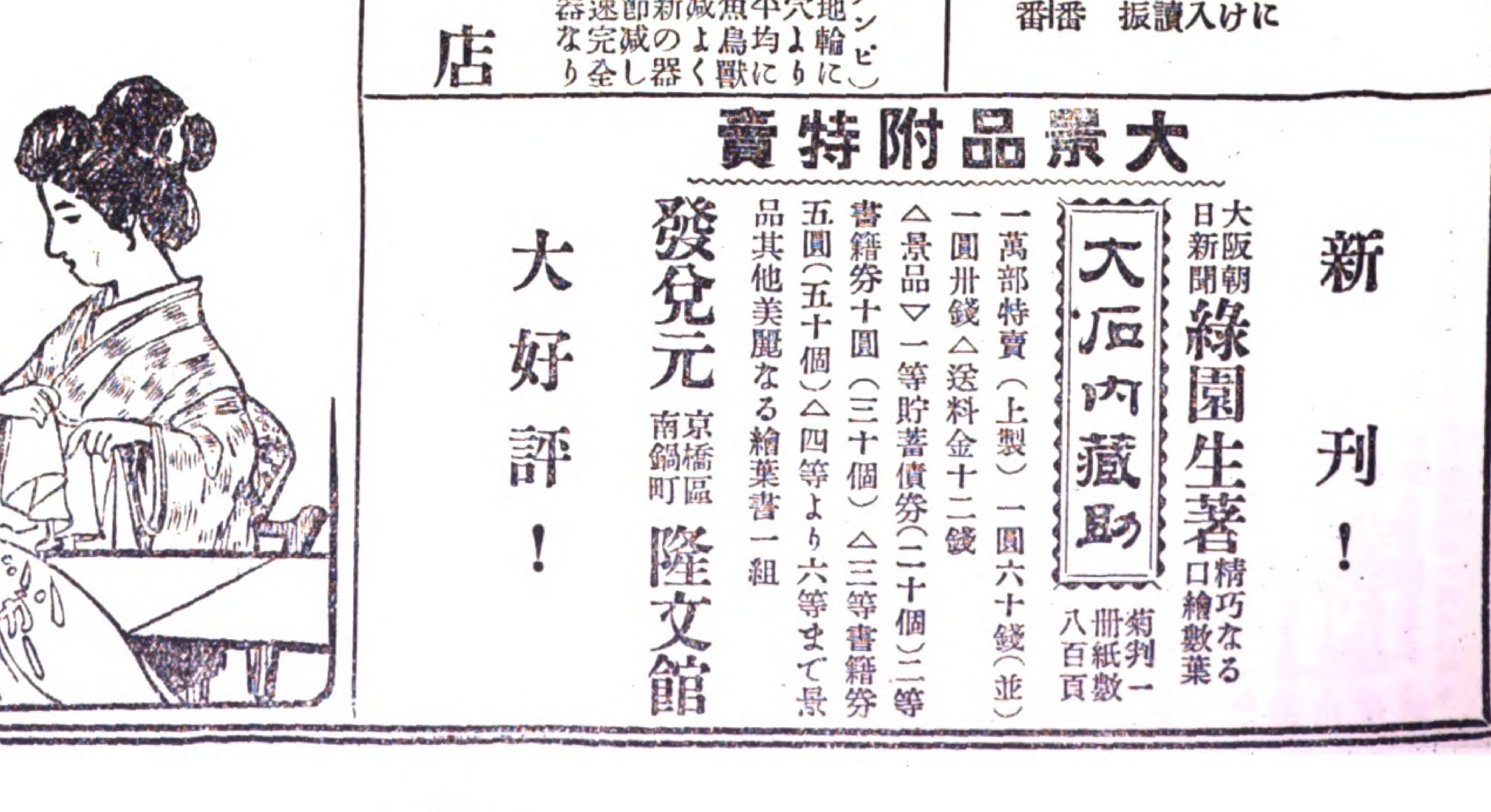
發行所 東京本郷弓町 成功雜誌社 振替貯金第二二〇九番 電話下谷二三七一番

金を產出す機械

私が機械の事でありますから、シンガーミシンを使へば家庭で裁縫なり。前垂なり小兒の運動服までも直ちに出來ます、さては旦那のネキタイよりホワイトシャツに至るまで、必要に應じて多々益々便じます、そうしてまさかの時に婦人が獨立する事の出來るのは唯だ シンガーミシン ばかりであります……

家庭用 婦人向 シンガーミシン 特廉 月賦大販賣

素人向シンガーミシンの無報酬出張教授付と月賦申込み御希望の方は至急に當店宛にて御報知あれ、無料て……明細書を差上げます……



シンガー裁縫機械會社 東京支店 銀座三丁目

新刊!

大阪朝日新聞 綠園生著 大石内藏助 精巧なる口繪數葉 菊判一冊紙數八百頁

大景品附特賣

一萬部特賣(上製)一圓六十錢(並)一圓卅錢 △送料金十二錢 △景品▽一等貯蓄債券(二十個)二等書籍券十圓(三十個)△三等書籍券五圓(五十個)△四等より六等まで景品其他美麗なる繪葉書一組

發兌元 京橋區南鍋町 隆文館

大好評!

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗用 ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◉用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは（拾貳号）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶し拭してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れの玉子て洗た樣になります又食器臺所道具ば解き掃除にも有効です

定價　拾貳号入 金拾五錢　袋入二錢
六号入 金八錢

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七二二

英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元　**三友商會**

電話開通御披露
新橋四千八百十五番
右開通仕候間此段御案内申上候
全國新聞雜誌廣告業
實業之日本婦人世界
愛國婦人專任取扱
一星社
京橋區南紺屋町一

大日本婦人録

定價金三圓　豫約特價 **貳圓**

豫約募集

載録要目　畏くも國母陛下を首め奉り、各内親王殿下、各宮妃殿下、華族令夫人令孃方現代の活動婦人及同じく紳士と稱せらるゝ人の夫人令孃、又一技一藝に長じたる婦人等一萬七千人の一身（年令職業里方住所電話及良人の爵位勳功官氏名）等卷頭には各婦人會總裁及會長の寫眞卷末には各婦人會、各女學校の所在と内容

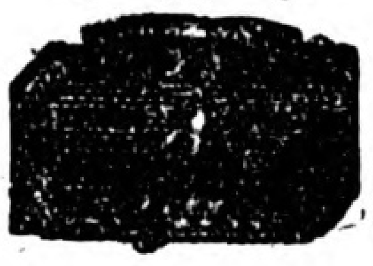
豫約規定　一切前金不要製本完成の上代金引換にて提供す都鄙地方には別に郵便料を受く

豫約　三月壹日限　**發行所**　東京神田三崎町三ノ一　電話本局一四七六番　**婦女通信社**

豫約申込所　東京神田佐柄木町二十一番地　電話本局三一二七番　博運社

めりんす友仙
新形大物品々
東京日本橋区人形町通り
赤のれん

船來　手風琴



無師獨奏　紙腔琴

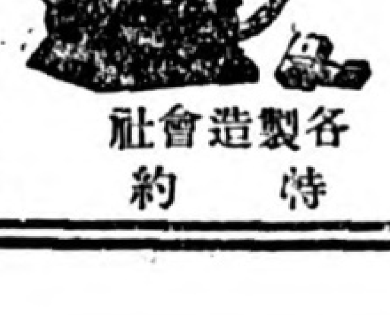
◎奏曲自在
上製金拾五圓
中製金拾圓
小形金五圓
新荷着
金三圓三十錢以上
金二十圓迄

西洋横笛（ハーモニカ）

金三十五錢以上金貳圓迄

東京銀座三丁目
十字屋樂器店
電話新橋一二五九

大聲發音器



各製造會社特約

東京博覽會一等賞牌

西川風琴

資本金壹千萬圓

釀造元
日本醬油釀造株式會社
東京深川小名木川邊
電話浪花 三七三 一五九五番

甘露醬油　ウメニホン
最上醬油　ヒシニホン
最上醬油　フジニホン
天下一品　マツニホン

●最上醬油以下 數種あり

特約販賣店
合資會社 日本醬油 東京販賣所　東京日本橋區北新堀町（電話浪花長一四六番）
東京酒類問屋組合
其他
酒醬油仲買店及各小賣店に於て販賣致候

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂　神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社　京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社　日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍　京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店　同區南鍋町 廣告社

明治四十一年三月五日發行（毎月五日廿日二回）
（定價金三錢一ヶ月六錢郵税不要）發行兼印刷人 山澤俊夫　（廣告料一行金六拾錢）編輯人 永持德一
發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所
發賣所 同 京橋區南鍋町 株式會社隆文館
印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場

附録　愛國婦人會記事

愛國婦人會記事

□參事會　去月廿六日午後一時より本部樓上に於て、參事會を開き、東郷、濱尾、松平須磨子、關、高木錸子、山脇の諸氏出席、同二時閉會せり。

□評議員會　豫報の如く去月廿六日參事會閉會後、午後二時より開催近衛、谷の兩理事東郷評議員以下二十三名出席主として會員募集費臨時規定の延期並に改正の件及來四月下旬開催の筈なる、總會の件に就て議し、午後五時散會、當日向坂島根支部評議員、水落福岡幹事傍聽す。

▼因に記す。本月の評議員會は來る廿五日第四水曜日に開催の豫定なり。

□拜謁　本月二日 總裁閑院宮妃殿下御邸に於て、福岡支部幹事水落眞知子及熊本支部幹事田代治子の兩氏、拜謁仰付られたり。

▼水落眞知子氏は今回自費にて、癈兵池末長太郎氏を迭り來りしものにて、良人歿後其富裕なる資産を以て、慈善事業に盡瘁しつゝある篤志家にして夙に有功章を佩せり。

▼田代治子氏は、前に故奧村刀自の一行に加はりて、北清軍慰問の爲め滿洲へ渡航したる程の熱心家なるが、蠶業の有望なるを知り、之を郷里に擴めん爲、先づ自ら斯道を會得せんとて、目下滯京中、亦夙に二等有功章を佩せり。

□主事相談會　去月十八十九兩日東京京都神奈川（事務員）埼玉（事務員）群馬千葉茨城栃木靜岡山梨等の各支部主事來會、相談會を開きたり。猶十九日の會には、岩倉會長、濱尾、東郷、關、中山、山脇、高木、仁杉、松平等の八參事會員及佐藤會計監督等も臨席し午後四時散會せり。

□晩餐會　前項記載の主事會へ出席の主事事務員等慰勞の爲め、仝日午後四時半より晩餐を饗應し兼ねて本部、東京支部事務員及發行所員等の晩餐會をも開きたり。

支部記事

▽北海道支部近況△

▼浦河幹事部　二月四日午前十一時浦河支廳附近より出火し折柄烈風の爲め支廳（同廳內幹事部も燒失）警察署銀行等約貳百戸燒失したるを以て不取敢支部長より左の見舞状を送れり

拜啓陳者過る四日御地未曾有の火災の爲め支廳も遂に類燒の趣御神痛如何斗りと御推察申上候御家族に於ては御怪我も之無候哉職員會員方の內にも定めて罹災の向も可有之歟に御同情の感に堪へず候先は不取敢御見舞申上度候草々拜具

明治四十一年二月六日　愛國婦人會北海道支部長河島樂子

浦河幹事部長西久子殿

同時に同町軍人遺族及廢兵諸氏の內現被救護者にして今回類燒の不幸に相遇せる者の調査報告方を主事より照會せり

▼夕張郡角田村委員部　二月十六日午前十一時より第一回總會を栗山小學校に開催し、支部よりは評議員阿部垣子、內藤芳子、事務員小池九一、宇佐美守斎の諸氏出席し、一同着席するや、委員泉麟太郎氏開會の旨を告げ、次に森評議員は 總裁殿下の御尊影を開帷し、一同起立敬禮、次に阿部評議員 皇后陛下の御令旨を奉讀し、同氏支部長の祝詞代讀、次に宇佐美事務員主事の祝詞代讀、次に武川ろく子の答辭、次に內藤評議員支部長より贈與すべき賞品を、功勞者武川ろく子外十七名に授與し、次に泉幹事委員部より贈與すべき紀念品を村內遺族癈兵十六名に贈與し、次に泉委員會務を報告し、次に會員高橋みゆき、守山壽惠子、見鳥まつの、生徒土井きよし、小秋元緣子、遠藤よね子の祝詞來賓長沼村委員高久慶三郎、同村會員笹尾そよ子の祝詞あり、次に小池支部事務員本會の旨趣並に希望を演述し、次に評議員一同は來會せる遺族廢兵に慰問の辭を陳べ紀念品を贈與す次に武川幹事閉會の旨を告ぐ、終りに紀念の爲め撮影あり、餘與として煙火、生花の陳列、福引、蓄音器等あり盛會を極む、來會者は會員百二十名、來賓及女生徒を加ふれば、總員參百有餘名にして、當日は天候の良好なると、幹事、委員諸氏の熱誠なる設備と精神的幹旋とは、來會者に頗る滿足を與へたるのみならず、此の擧が將來に向て擴張の動機となりたるは、一同の認むる所なり、出張の評議員は、同委員部基本金として、金五圓を寄贈せらる、斯る盛擧は實に開村以來未曾有の事なりと云へり、而して一行は同日午後四時栗山發列車にて歸札せり。

▽熊本支部近況△

熊本支部にては、去二月十七日午後一時より赤十字社支部に於て、例會を開きたるが、來會者は押川支部長、評議員細川子爵夫人を始め、幹事以下會員四十余名支部よりは河內山主事、吉田島田村上の各事務員出席、先づ筑山女史は例により趣向斬新にして、最も有益なる料理法の講話をなし。次いて西行南木兩師の演説ありしが、何れも頗る趣味に富み、殊に夫人令孃達には、多大の稗補を與へしなるべし。終つて河內山主事より、會務の報告をなし、散歩せしは午後五時頃なりき。

女德論叢　五月下旬發行

故奧村刀自詳傳　近日刊行

愛國婦人發行所

▽靜岡支部近況△

▼賀茂郡幹事部　去二月各所に於て會員總會並に會務擴張の趣旨を以て、講話會を開きたり。出席者は幹事部長始め顧問各町村委員會員其他有志者にて何れも盛會を極め、會務報告並に會員の爲め、有益なる講話數席あり。當支部よりは、事務員近藤鈴子、出張し、本會の起源目的經過實况等を悉しく説明し、會員增募の必要なる事項を講話し、余與として鳥居喜登子の琵琶彈奏あり。幹事よりは會員一同に薬子一包ヅ、贈與して閉會を告げたり。元來該郡地勢は山岳多く近隣町村に至るも、道路必ず山若くは海ならざるはなきに、各會共出席多く且つ現場にて多數の入會申込もありき。殊に松崎町委員依田善六氏は竹田顧問其他重なる列席者並に同町役員に對し、盛大なる慰勞の實を開かれ、下田町總會に於ては東京藥業家數氏より會員一同に對し寄贈品ありたり。▲二月三日松崎町松會樓に於て午後二時開會同七時閉會せり。出席數三百五十余名、入會者四十余名。▲二月六日下田町泰平寺に於て午後二時開會同七時閉會せり。出席數六百五十余名、入會者五十余名。▲二月七日稻取村正定寺に於て午後二時開會、同七時閉會せり。出席數三百余名、入會者三十余名。

▲京都支部遊説記▼

京都支部内　富樫眞喜子

第二回報告（前號の續き）

一月二十四日　午前九時一行は周山村を距り約十五丁余（此間道路嶮しきこと甚し幹事部長は前夜も態々此處より來られしなり）にある岸田顧問宅を訪問なしたり。午後二時より周山慈眼寺に於て開會、岸田顧問仝幹事部長小島視學永瀬署長村山佐伯兩委員牧覺事を初め仝地の有力者其他附近の學校長郵便局長等も出席せり。一般聽衆は主として婦人にして、約四百余名を數ふ。岸田幹事部長閉會の辭を述べ、次に自分講話し。終りに郡長の演説あり閉會を告げしは六時なりき。即時申込み若干あり。村山委員其他の人々の斡旋により多數の入會者を得たるにして御此後再び仝郡 山國、黔谷、平屋弓削等の各村にて開會することに內決せり。講話後前記の人々と晩餐を共にし、種々本會の發展上に就て懇談し八時過退散せり。

一月二十五日　午前八時旅舍出立、歸京の途に就けり岸田顧問仝幹事部長小島視學草木事務員見送りの爲め來宿せられたり。元來し道を辿り〳〵午後四時無事に歸京せり。當日も天氣快晴加之下り多き爲め往路より容易にして早く歸京なしたり。夕飯後富小路柳馬場上る有隣小學校に於て家庭奨風音樂會の開催を機とし一場の講話を試むる豫定なりしを以て、午後六時半仝校へ臨みたり。支部よりは幹事大野この子、平岡駒子、世木仲子、平井英子、事務員菅谷、室谷兩氏出席せらる同校長岩井內之助氏は大に公共事業に熱心にして本會の爲にも妻女と共に盡力せらるゝなり。音樂の一部を終りたる時講話せり。會集者は廣き堂に充滿せるも能く靜肅に聽き取りたり、自分は講話終了後直に歸宿せり。

一月二十六日　修德校に於て開會。支部よりは六角評議員、大森、平井、平岡、淺野、四幹事菅谷、室谷、兩事務員出席せらる。伊藤仝校長井に惠坂委員も出席斡旋の勞を執られたり。開會前校長の案內にて仝校を參觀し。校內の設備兒童教育の方針敎授用具の整理等詳細に研究したり。定刻に至れば開會を報ず。聽衆約二百五十余名、伊藤校長の紹介につれて登壇例の如し講話五時半閉會せり、即時申込若干ありたり、午後七時五十分二條驛發の列車にて室谷事務員同行船井郡園部町へ赴きたり、九時二十分着池田幹事の出迎を受け行直に會場なる小學校に到りたり、當夜園部婦人會の初會にて多くの婦人會合する故を以て仝會より招待されたるものなり、三宅郡長は郷里興山へ赴かれ幹事部長は病み臥ひ為に出席なし、校長田中藤太郎氏、北部視學、今井事務員、池田、明田、の兩幹事大に斡旋の勞を執られたれば中々の盛會にして三百余名の婦人集合せり。自分の此席へ臨みたる時は學校兒童の文藝あり終りて京都救濟院勤誘の慈善に關する簡單の講話あり。夫より自分登壇講話を初む時正に十時なりしも聽衆は決して厭倦せざる故に充分本會の趣意井に將來の婦人の立脚地につき講話せよとの事にて勇を皷して說話す、聽者も實に靜肅に約三十分斗り過ぎめば突然警鐘の響を破るゝ火災よと校長視學等方向を檢するに更に火光を認めず遠方ならん靜まれと聽く人々を制するも警鐘は更に鳴り止まず、其中に火事は會場を去る四丁餘の四田呉服店なるを知り一層騷擾を極む、該家の婦人四人は皆會場に來り主人のみ留守をなし居たるが二階の炬燵より發火したるを往來の人が見たるにて先づ大事に至らずして止みたると其爲め三分の一位は歸宅したり、殘餘の人々先づ胸を靜めしも時間は追々更けたるを以て前述の局を結び尙天災地變に處する婦人の度胸につき少しく話終りを告げたり一時は非常の騷なりき。後會員福引をなし茶菓の饗を受けて各自退散せり、視學初め關係諸氏へは折詰を饗されたり歸宿したるは十二時なりき、當夜は綿喜旅舍に宿泊す。

一月二十七日　午前十時五十分園部發の汽車にて歸京の途につきたり、是より先き池田明田兩幹事三宅郡長北部視學今井事務員田中校長來訪されたり。一同に別を告げ十二時十分歸京したり午後七時より油小路高辻西北角格致校に於て開會大森支部長寺井幹事山中吉村兩幹事最上吉村兩委員室谷事務員出席、聽衆約百五十余名最上委員の開會の辭大森支部長の挨拶あり次に講話十時閉會したり。

一月二十八日　午後二時より下京區先斗町歌舞練場に於て開會、入主田支横川委員、平尾、高井、鈴木、中村の四幹事菅谷事務員出席せられ當日は歌妓取締頭を初め關係諸氏大に斡旋の勞を執られたり聽衆は漸く百名に過ぎざるも畢竟仝地の頭株不殘出席したるを以て今後會員募集上大に好都合と思はる、八田主事閉會辭を述べ次に横川委員の演説次に自分講話五時閉會せり。申込者は取締りに於て纏むることゝし數十枚の申込書を請求せり。

一月二十九日　本日は大阪支部に於て故奧村刀自の一週法會營まるゝに付午前九時三十七分京都發の列車にて大阪へ赴き直に支部へ到りたり。午後一時式は始まり、三時を以て終へ夫より一般參拜者に茶菓井に辨當の接待あり、四時退散其概況は『別項支部記事』中に掲ぐるもの〻如し。夫より職員諸氏と彼此と懇談し六時四十分梅田發の列車にて歸京せり。

愛國婦人大革新　社告第一面に掲載せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支部記事（一面より續く）

▽大阪支部近況△

□故奥村刀自追弔會　去一月廿九日午後一時より故人の一週忌法要を營み、同三時散會せりと。當日の狀況を本部遊說員富樫眞寄子女史の報ぜられたるもの左の如し。

門には本會旗を交叉し玄關入口より通路には青白の幔幕を張り廻はし受附ありて參拜者の名を留め接待掛整理掛等各職員其勞を執られ設備萬端行き届けり、會場は支部樓上にして正面床上に食卓を置き故奥村刀自の寫眞と法名を安置し水仙に椿を添へたる花瓶を兩側に排へ鏡餅、蜜柑、饅頭並に押幹事部より供へたる大守饅頭三百個（箱入）を供へ三つ具足を飾り南無阿彌陀佛軸を掛け燈光明らげく薫香清らかなり、高崎支部長以下各職員遺族山田節太郎夫婦幹事部より來會の各職員事務員並に會員支部授產場に收容の遺族一同著席するや木村赤松の兩僧侶厳かに讀經回向をなし此にて式を終へ、續て赤松連城師の法話ありたり京都より横川嘉順師の代理汽車時間の都合上少しく遅れ來設せられたるを以て再び同師の讀經ありたり、夫より一同茶菓並に膳部の饗應あり遺族一同へは別室にて同饗應をなし御白木綿中反宛を贈られたるよし、當日の料理總て職員の手になりたるものにして支部長初め沖野、大谷兩幹事斡旋一方ならず、來客遺族一同も滿足して感涙に咽び居る者も見受けたり。

▽廣島支部△

□故奥村刀自追弔會　客月七日午後一時半より市内鍋屋町明教寺に於て故奥村五百子女史の追弔會を擧行せられたるが來會者は廣島愛國婦人會支部員並に會員等約三百餘名あり導師は四寺町善正寺老麗中川龍鳳師を始め市内十ケ寺住職の讀經あり安藝郡よりは幹事部長代理遠山事務員出席し高田郡幹事部長より弔電あり頗る盛會なりき當日宗像廣島支部顧問並に宗像同支部長の追弔辭は左の如し

爰に愛國婦人會主唱者唯信院禪尼眞道故正七位奥村五百子女史の小祥忌に當り恭しく追薦の典を擧ぐ惟ふに我國博愛慈善の大旨を内外に發揮せるもの日本赤十字社あり又本會あり以て雙璧と稱す而して彼は丈夫の經營になり此は巾幗の計畫に生ず難易豈に同日の比にあらず而も女史剛正の資至信の行を以て斯道の發揮に任じ能く其難きを凌ぐ眞に道に[illegible]あるものと謂ふべく眞人の[illegible]にあらざれば焉ぞ能く此の如くならんや女史今や亡く痛恨限りなしと雖も會勢は駸々として益其興光を放ち帝國内女性唯一の大團體として國家に貢獻するもの將に測られざらんとす嗚呼女史已に大功を樹て亦眞人の鑑な[illegible]ふ其冥福の饒き固と言ふを須たず仍ち之が功績と[illegible]とを併せ叙して追薦の詞となす尊靈庶幾くは來り歆けよ

明治四十一年二月七日

愛國婦人會廣島支部顧問　從四位勳三等　宗像政

爰に明治四十一年二月七日本會の主唱者なる故正七位奥村五百子刀自の一週忌に方り追薦の式を行ふて刀自の眞額を[illegible]る

顧みれば刀自の本縣に遊說せられしもの前後二回諄々として奉公の大義を說きて能く彼等を啓發せしめらる爾來我等向背を一にして三十七八年戰役の際の如き後援の務に從ひ以て婦道を全ふし畏くも　皇后陛下の令旨を奉ずるを得たるもの實に刀自の賜なり刀自の逝かれしより星霜疾くも一周となりぬ此間會運は日々に隆盛の域に進み本會の總員七十餘萬人本縣亦同志三萬有餘名を算するに至りたり刀自の在して親しく此狀況を見聞かれ給ひて如何許りか喜ばれしならんに今や杳かにして其音容を仰ぐこと能はず是れ固と人事の常なりと雖も當時を追懷して之を思ひ彼を念へばいとど無限の哀に禁へず然れども刀自の遺業は益々その規模を擴めつゝ刀自の高名と其業榮を競ひて千古盡くの期なけん尊靈幸ひに安かれかし仍て同志相會し此に菲薄の奠を供へて追慕の哀を表はし敬みて尊靈に告す希くは[illegible]照鑒を垂れ賜はんとを嗚呼哀しい哉

明治四十一年二月七日

愛國婦人會廣島支部長　宗像直子

右法會終りたる後藤屋町專光寺住職藤澤大道師の熱心なる說教ありて午後三時半散會せりと云ふ

□長野支部　上水内郡三輪村婦人會發會式は同村愛國婦人會第一回總會を兼ね二月十日午後一時より擧行來賓は長野支部長飯塚夫人、守瀬事務員、同郡幹事部長代理大熊郡書記其他學校長、村長、學務委員、村會議員等にして先づ君ヶ代の唱歌あり次て五明同村小學校長の勅語捧讀、支部長代理の祝詞、幹事部長の祝詞に嫁れて飯塚演說其他二三の演說あり終つて餘興に移り閉會せしは同九時頃盛況なりき

□岐阜支部　岐阜支部目下の現在會員は特別會員七百九十七人通常會員四千六百五十三人合計五千四百五十人外に贊助員四百三十五人にして女子人口百人に對する配當數は五人餘なり、尙ほ其の郡市別を擧ぐれば左の如し

岐阜市	四六七	稻葉郡	四〇九
羽島郡	四〇一	海津郡	一二二
養老郡	四三五	不破郡	一二二
安八郡	九六〇	揖斐郡	五九
本巣郡	二七九	山縣郡	一六七
武儀郡	二一七	郡上郡	二三四
加茂郡	一一一	可兒郡	二四三
土岐郡	一八三	惠那郡	四二一
益田郡	一八二	大野郡	三二三
吉城郡	一二五		

□青森支部　會旨普及の爲め管下上北郡內遊說中なる愛國婦人會青森支部首席事務員の一行は客月十二日七戸町青岩寺に於て幻燈會を開く當夜稀りに雪降りたるも來り會する婦人無慮八百有餘名と註せられぬ小島郡幹事部長及小島郡書記同始め幹事委員等全部出席斡旋の勞を執れり先づ七戸町委員高橋縣兒氏開會の辭を爲し尋て首席事務員歷史畫に就き說明をなし大に感動を與へ即夜入會員五名あり當町は此れにて會員二百三十七名（內特別會員二十名）となり人口に對する會員六人八分の割合に達し豫定率を超ゆること實に百三十五名にして流石新興に熱誠を濺ぎける小島幹事部長の所在地丈ありて非常の盛況と謂ふべし右に就き盡力せしは前記の外橋本郡事務員並謀島助役、濱館小學校長沼尾、小山、鈴木の各訓導及戸田役場書記及同寺住職青山智威氏の諸氏にして盛會なりき◎同支部一月三十一日現在の會員各郡市幹事部別豫定過不足表は左の如しと

郡市名	現在數	豫定過不足	女子人口に對する會員數（人）
青森市	一、四五四	過八五五	七、〇六
弘前市	一、一六一	同六三四	六、五五
東郡	一、〇九八	同　七五	三、一六
三戸郡	一、八〇七	同　五一	三、〇五
下北郡	五〇八	同　二五	三、〇三
西郡	一、〇六八	不足　五	三、〇三
北郡	九五一	同一五六	二、五六
上北郡	九二七	同一六三	二、五二
南郡	九八六	同五〇〇	二、〇〇

□栃木支部　上都賀郡鹿沼町に於ける愛國婦人會幹事諸氏は客月八日長井幹事部長宅に於て新年會を催ふし該會擴張に關する種々の協議をなし終りて宴會を開き福引及び落語講談等の餘興ありて各自十二分の歡を盡し散會せしは午後八時なりき

□和歌山支部　日高郡幹事部に於て去月二十八日第一回總會を開催し同幹事部に於ける會務の報告等ある筈なり因に同幹事部管内に於ては昨年末より本年一月に至る迄の間に於て約三百餘名の入會ありたるを以て同總會には八百餘名の會員は之れに臨まれたり

□宮城支部　宮城にては本月下旬頃市内に於ける軍人遺族及び廢兵慰問を爲す筈なり

□函館支部　宮城縣刈田郡幹事部より火災義捐寄贈金四圓寄贈あるべき旨篤志看護婦會宮城支會長松永登美子愛國婦人會宮城支會長龜井眞瀬子より當地支部へ申込み來れり

□群馬支部　にては日本赤十字社群馬支部が社員總會を行ひたる翌日即ち四月二日を以て總裁閑院宮妃殿下の御台臨を仰ぎ愛國婦人會群馬支部總會を開催する豫定にして式場等は赤十字に於て設備したるものを其儘使用することゝし其他は本會の趣意に基き淸楚を旨とし計上するも尙は概略五千圓の多きに及ぶと然るに支部經費中斯くの如き費用に充つべき餘裕あらざるを以て此際縣下一般篤志家の寄附を求め各郡市へ若干宛分擔額を割當てたり其の內容を聞くに左の如し

一金五千圓　總會豫算

內

金千圓　前橋市

金四百圓づつ　多野郡、群馬郡、

金三百五十圓宛　佐波郡、高崎市、

金貳百五十圓宛　勢多郡、北甘樂郡、碓氷郡、山田郡、吾妻郡、利根郡、新田郡、邑樂郡、

有功章贈與規則

五十圓寄附者　三等有功章贈與

百五十圓同　二等有功章同

三百圓同　一等有功章同

但有功章佩用者にして會金員寄附せしものは相當進級せらる

實驗談

愛媛支部顧問　安藤謙介氏

◎自分が愛媛縣へ赴任の當時は、愛國婦人會の存在さへ知らぬ婦人が多數を占めて居たのてある。て本部の方からも擴張策に就ては度々申越があり又當支部の會員諸君も支部長等も、速かに發展の方法を取りたいと計畫して居た際てあつたから、自分も極々の機會に乘じて、入會の勸誘にも務めたのてあつた。然るに戰時中の事てあるが有名なる貴婦人が、當地へ來られると云ふ事を聞いて、入會を申込むと云ふ滑稽な現象さへ呈した事があつた。其の一例は、大山元帥夫人が見えると云ふ事を聞いて、大山夫人を見たさに入會した者があつたと云ふやうなのが夫てある。

◎夫等は一時の虛榮心と好奇心とに驅られたものなので夫人を一目見たる、脫會……其程てなくとも會費位は乾度滯らせてしまうのてあつた。

◎夫ては何にもならぬので、自分も大に考へて何か適切な案をと苦心したのてある。

◎元來自分は慈善團隊のことは實際贊成てはあるが、餘り種々な團體があるので左樣々から盡力出來ぬ。公務を控へて居事はあるから、あれもこれもと凡てを滿足させることは不可能てある。そこて大の虫を助けるといふ方針て、赤十字社と愛國婦人會の事業とに充分、斡旋しやうと決心した。即ち愛國婦人會を發展擴張させる爲に考へた愚案の要領は、左の如きものてある。

一、亭主から會費をもらつて入會する者は御斷り申す。會費は亭主より當がはれた日常の經費中から、節儉をして出すやうにして欲しい。即ち年額僅々一圓の會費を一日に割當てあれば、二文餘り……三文にも足らぬ[illegible]。會費は是非日常三文宛儉約した事の中より約むる事にしたいと云ふ

二、家内の經濟を質素にして、亭主を喜ばす事。其方法は主婦たるものは、一家の經濟上何を置いても調理法を心得なければならぬ。家内の調理が亭主の意に充つれば、亭主とて決して態々料理屋へ入浸るものては無い。細君の料理がやすくて甘ければ、自然に料理屋入りは止むものてある。

三、日本婦人は學力の程度が低いので、男と對話して男子に滿足を與ふる程、世上の雜話をする事が出來ない。即ち西洋ならば美術の話ても、政治上の話ても何ても男子の相手になる事が出來る。即ち學問の素養がある故てある。日本の婦人方も最少し勉强せなければならぬ。男子の話對手となる事が出來れば、面白く世渡りが出來て自然一家團欒の基となるのてある。

四、日本の習慣て最も遺憾なのは、婦人が財產を所持せず、只單に亭主から貰ふだけと云ふ點てある。てあるから金の問題に就ては、一切亭主に相談を要するので、亭主の氣に入らぬ慈善會には、婦人は入ることが出來ぬ譯となる。故に今之を脫却するには、平常あてがはれた金額を、節儉するのが第一てある。

◎以上の如き要領を以て自分は各郡市毎に婦人を集めて演說をした。而して同時に此主旨に適はぬ婦人は、入會は御斷り申すといふ事にした。如何となれば、く亭主に計りたる方に限つて、一家の和合もうまくは行かず、從つて亭主にも氣に入られず。自然會員となつても永持はしない故てある。

◎處が此の自分の演說を聞いた亭主達の意向は、大層良好て、斯かる主旨の會ならば妻も入るが宜しとて、陸續入會するやうになつた。從つて此演說の主旨に基いて入つた婦人の基礎は强固てある。又此に反せる人は自然會員とならぬ趨勢となつて、我愛媛支部は外面上華やかと云ひ難いけれども、基礎は極めて强固なのてある。云々

愛の權化（上）

花は盛りに月は隅なきをのみ賞すべきかは。人もまた然なり。身深窓に養はれておよすけて良配を得、波風の荒き烈しきをも感ずること無く安らかに世を過さんのみを、羨むべき身の上とは云ひ難し。玆に國家的慈善事業の爲、一身を捧げて盡したるの故を以て、わが總裁閑院宮妃殿下並に梨本宮妃殿下へ拜謁の榮を得たる、水落眞知子女史をこそ、尊ぶべき身とは云ふべきなれ。女史は福岡縣三潴郡の人、舊有馬家の家臣が愛娘にして、數年前良夫に別れてより、丈にも餘る黑髮を惜しげもなく切放ちて、以來篤志看護婦人會に身を投じ、わが愛國婦人會の爲には福岡支部幹事となりて、斡旋盡力一方ならざりしが、別項記載の如く此度兵池末長太郎氏を伴ひて、上京されしに此由いつか雲井に聽えて、去月廿一日赤十字社に御臺臨の梨本宮妃殿下に拜謁仰付られ、有難き御言葉の數々を賜はりしが、次て本月二日には、總裁宮殿下御邸に於て、妃殿下へ拜謁を賜はり其功勞を賞せられたり。今記者が親しく女史に接して聞得たる其經歷の一斑を述べんかと、次號を待て。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十一年三月五日（毎月二回五日廿日發行）明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

元評議員
佩一等有功章男爵夫人 神山萬佐子

青森支部評議員佩二等有功章 柳原つる子

元山形支部長佩一等有功章 田中喜美子

群馬支部北甘楽郡幹事佩三等有功章 上原よれ子

神奈川支部鎌倉郡幹事部長佩一等有功章 原田千世子

故奥村五百子塑像

IMPERIAL・LIBRARY

發行兼印刷人山澤俊夫 編輯人永持德一 發行所 愛國婦人會内愛國婦人發行所 印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁番十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN